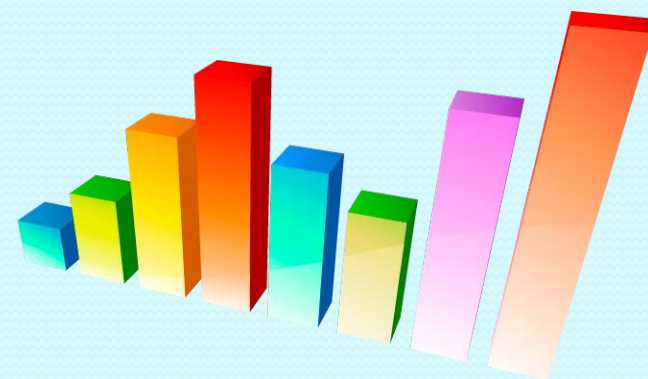


2018年第4四半期の産業活動の振り返りと今後の展望

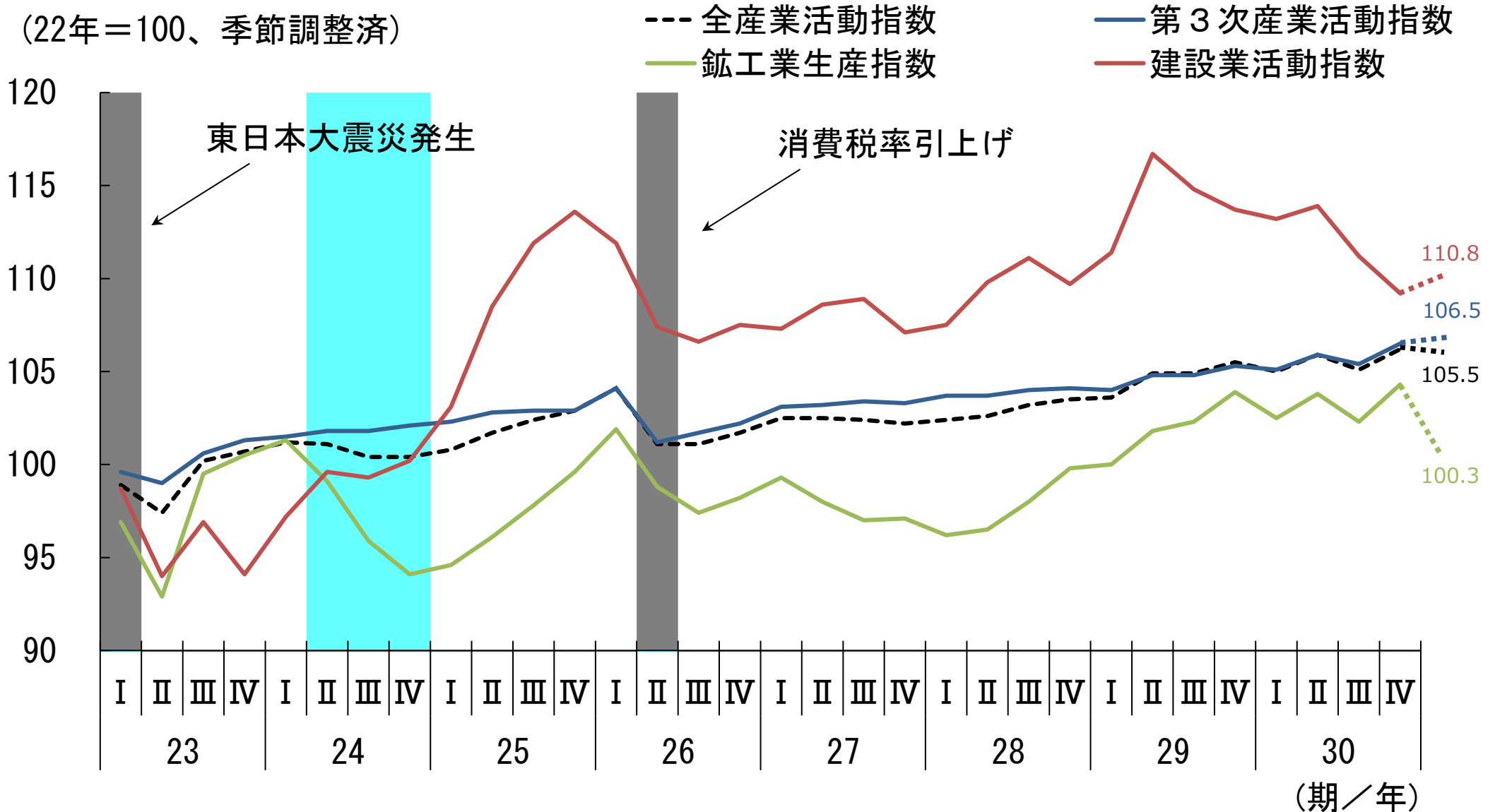
過去最高水準の2018年第4四半期から、足踏みしている製造業。
持ち直しの動きがみられるサービス業。



経済産業省
経済解析室
2019年4月

全産業活動指数の動向

- ・ 2018年10-12月期の全産業活動指数は106.2(前期比1.0%)と2期ぶりの上昇となった。
2019年1月分も点線で表示すると以下のとおり。



(注) 水色のシャドー部分は景気後退局面。

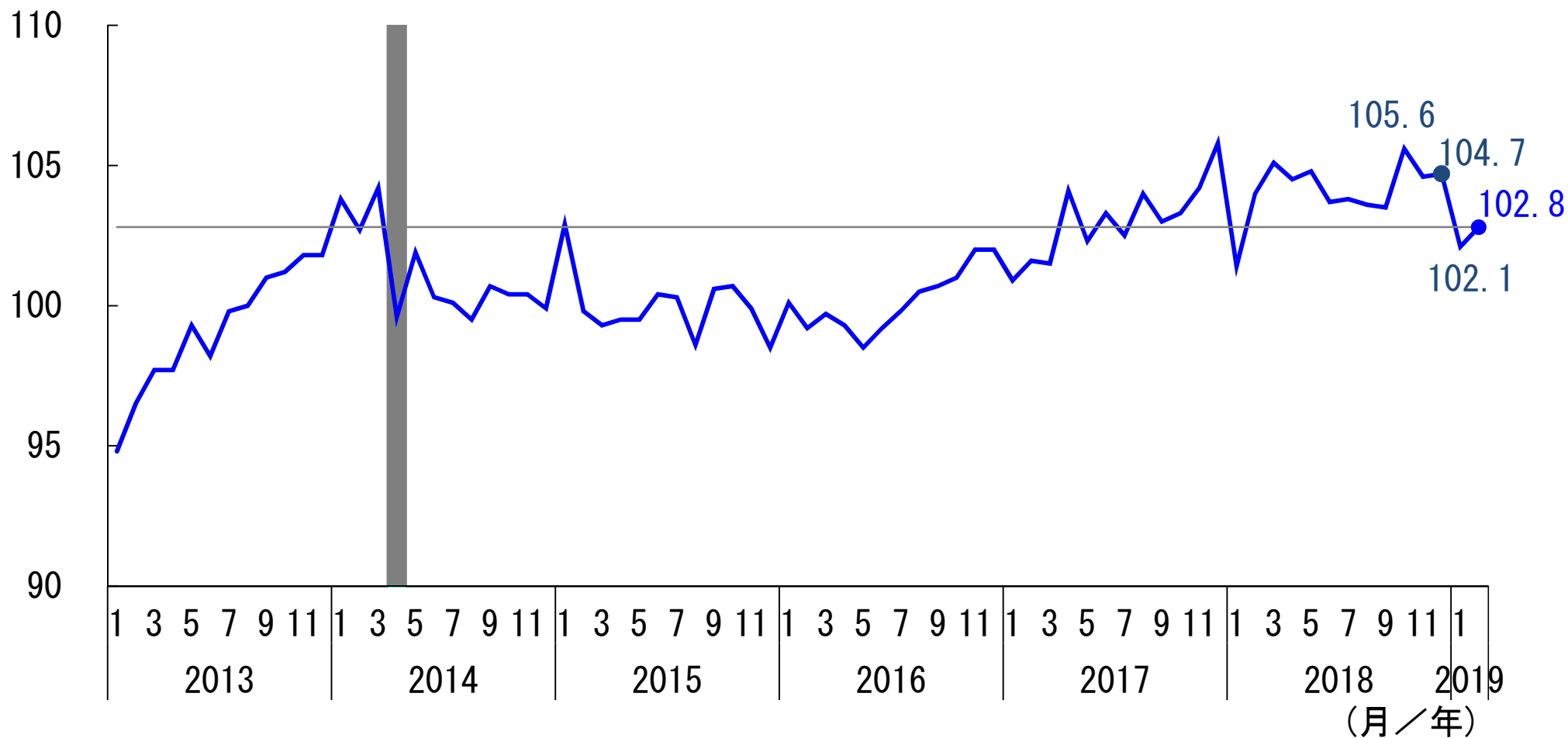
(資料) 経済産業省「全産業活動指数」より作成。

鋁工業活動の動向

鋳工業生産指数の動向

・ 2019年2月の鋳工業生産指数は、102.8(前月比0.7%)と2か月ぶりの上昇。

(2015年=100、季節調整済)

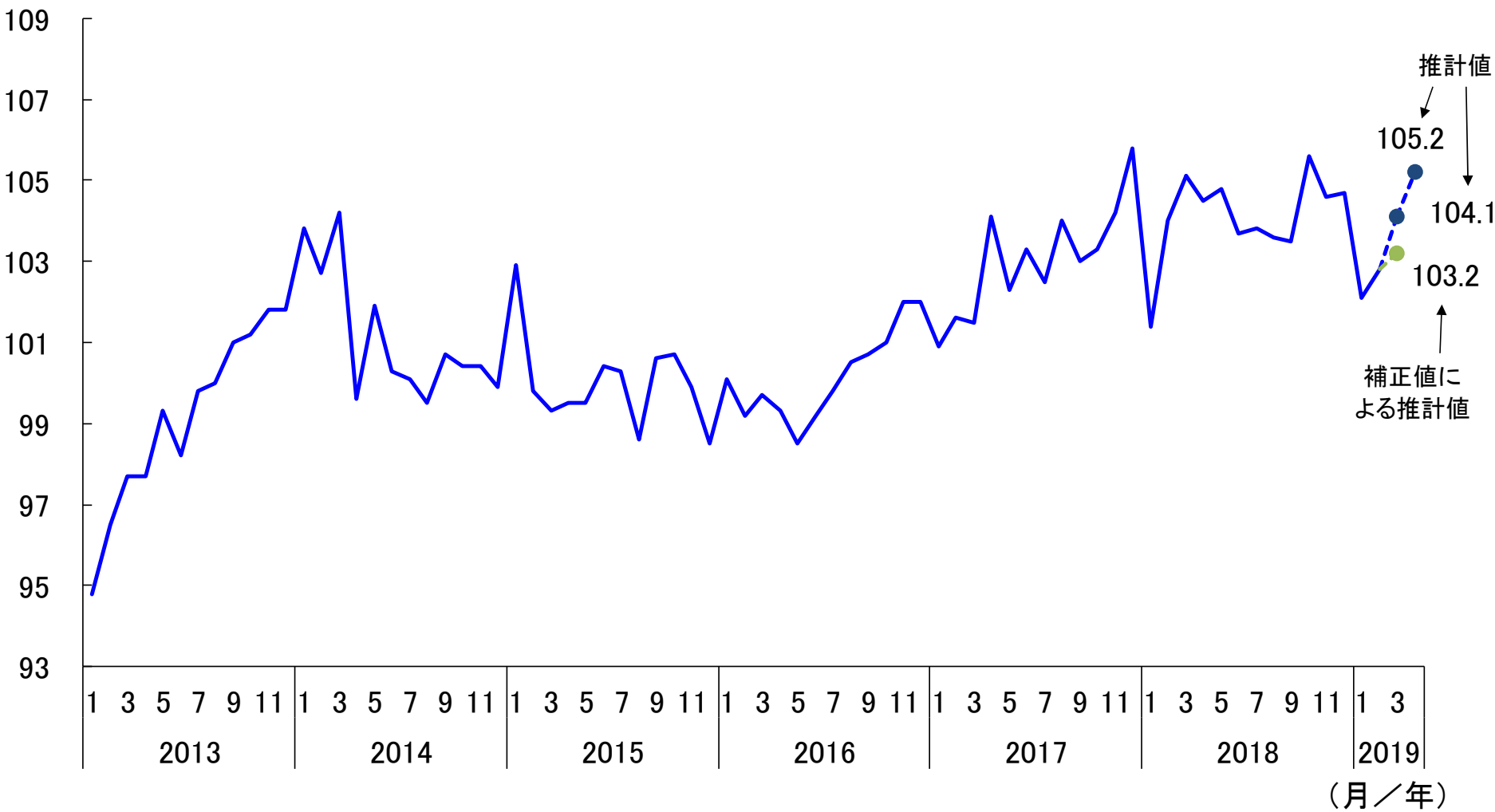


(注) 1. 鋳工業指数(IIP)とは、月々の鋳工業の生産、出荷、在庫等を基準年(現在は、平成27年)の12か月平均=100として指数化したもので、事業所の生産活動、製品の需給動向など鋳工業全体の動きを示す代表的な指標。
 2. 灰色のシャドウ部分は、消費税率引上げ。

製造工業生産予測調査の前月比で鉱工業指数（季節調整値）を延長

- 3月（当月）の補正值による鉱工業生産指数の見込み値は103.2と、2か月連続の上昇を見込む。

（2015年＝100、季節調整済）



（注）1. 補正值は、製造工業生産予測指数がもつ傾向的な部分を修正し、実際の鉱工業指数の動きをより適切に把握できるようにしたものです。
（注）2. 鉱工業指数は2月確報値で2018年分の年間補正を行い、2011年～2018年のデータで季節調整の再計算を行っているのに対し、製造工業生産予測調査の2月⁴調査値と補正值は、年間補正前の2010年～2017年のデータによる季節調整に基づくものであるため、幅を持って解釈する必要がある。

2019年2月の鉱工業生産指数を大きく動かした品目（業種別）

		業種・品目名	前月比	寄与率
鉱工業生産を 上昇 方向へ 引っ張った3業種の中で 上昇への影響度が大きい 2品目	1位の業種	自動車工業	3.3%	77.2%
	品目	乗用車	4.7%	52.6%
		車体・自動車部品	2.7%	25.4%
	2位の業種	生産用機械工業	5.5%	58.7%
	品目	半導体・フラットパネルディスプレイ製造装置	25.0%	61.7%
		建設・鉱山機械	5.9%	11.3%
鉱工業生産を 低下 方向へ 引っ張った3業種の中で 低下への影響度が大きい 2品目	3位の業種	電気・情報通信機械工業	4.6%	51.6%
	品目	空調・住宅関連機器	12.6%	14.3%
		電池	11.7%	11.1%
	1位の業種	電子部品・デバイス工業	－4.9%	－40.7%
	品目	集積回路	－8.4%	－26.5%
		電子デバイス	－10.7%	－17.4%
	2位の業種	輸送機械工業（除. 自動車工業）	－7.3%	－27.4%
	品目	航空機部品	－20.8%	－32.9%
		産業車両	－4.1%	－1.4%
	3位の業種	無機・有機化学工業	－3.6%	－24.9%
	品目	プラスチック	－6.2%	－13.2%
		石油化学系基礎製品	－3.4%	－5.5%

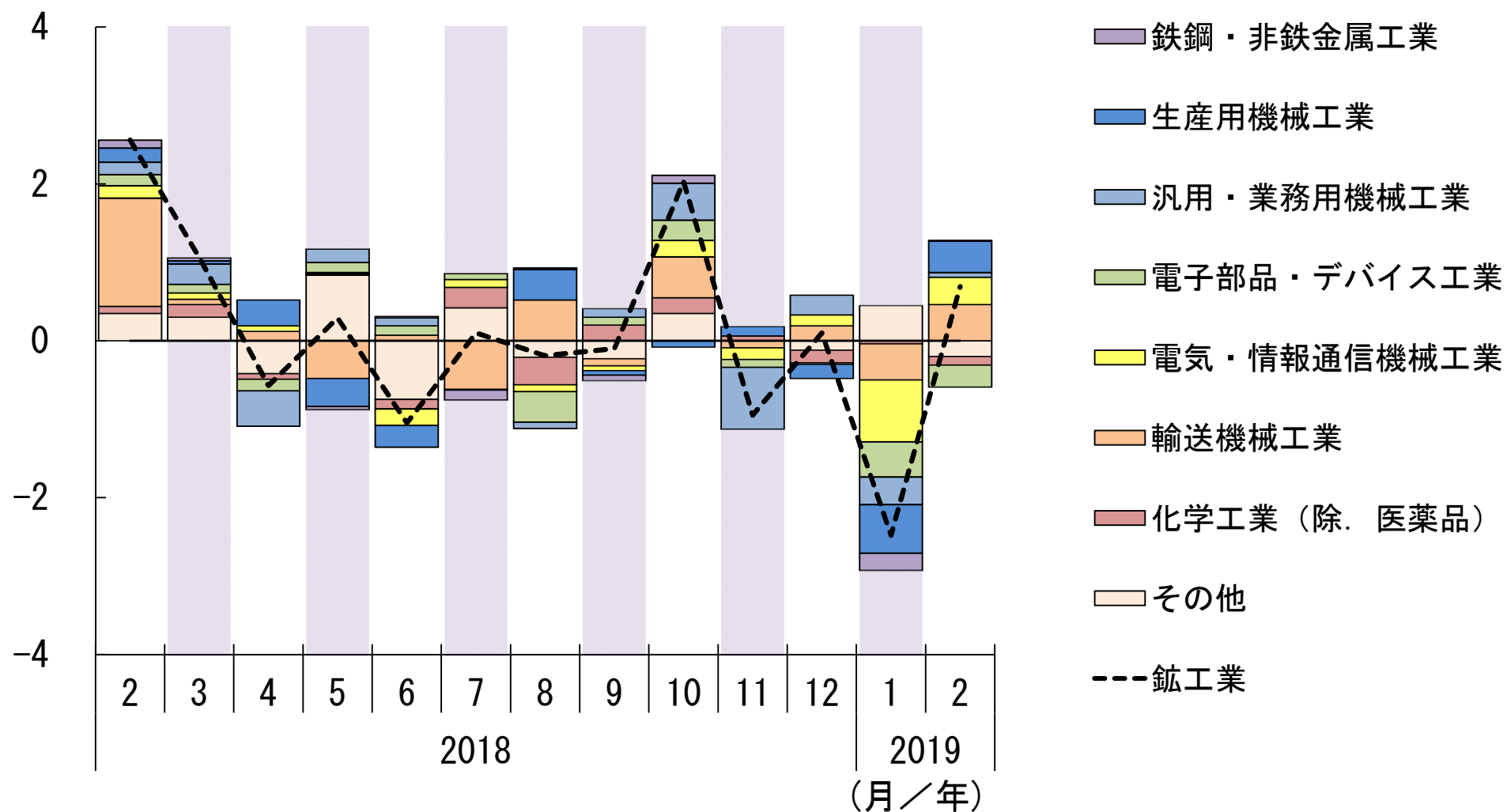
寄与率：生産全体の変動に対して影響を及ぼした、各品目の影響の度合い。全116業種の寄与率を足すと、当月が上昇なら100%、低下なら－100%になる。

（注）全体の各品目は、個別品目ではなく、個別品目を統合した分類によるもの。

鉱工業生産前月比 業種別の影響度合い

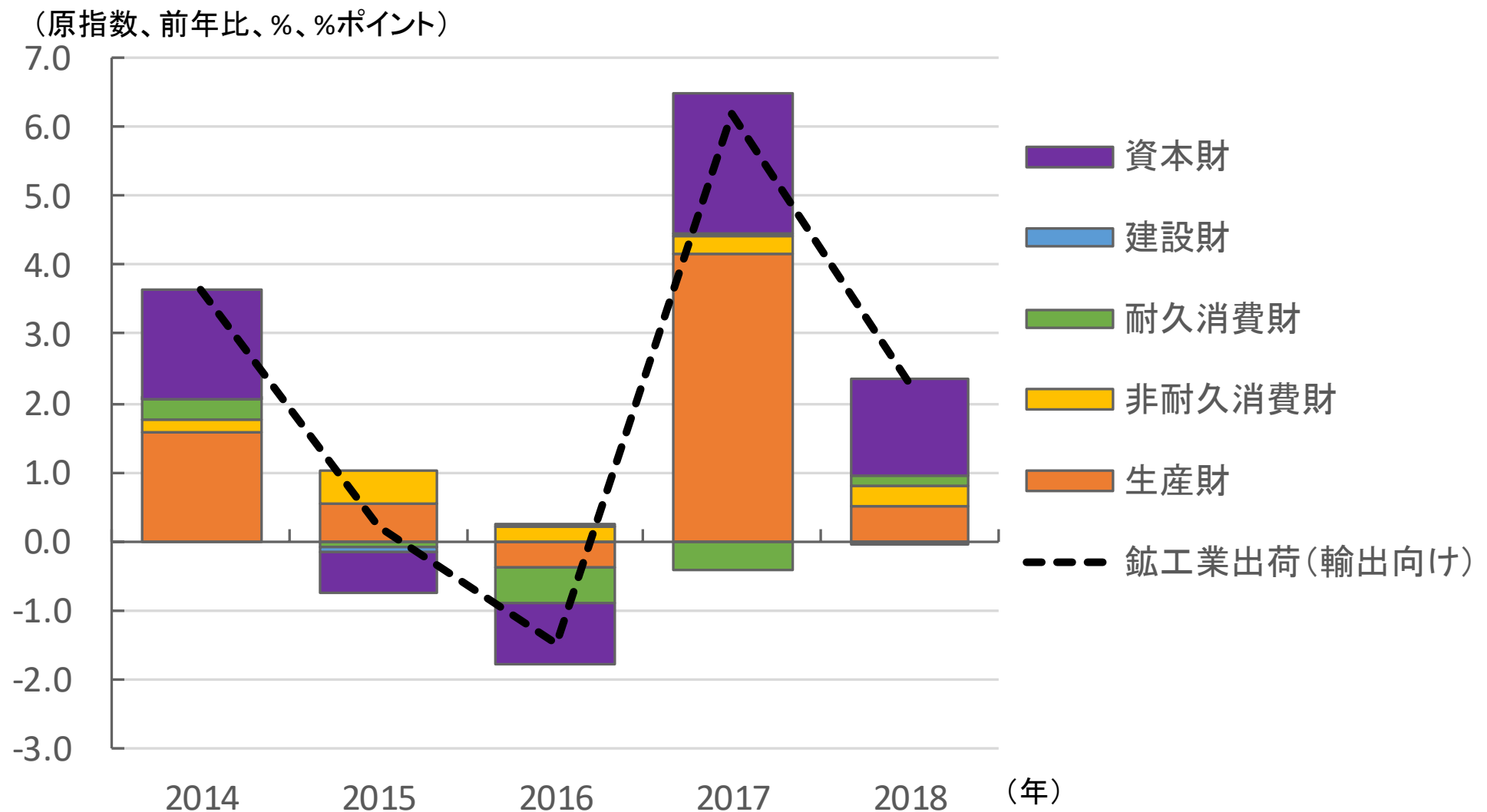
- 2019年2月の生産指数は、電子部品・デバイス工業などが低下したものの、輸送機械工業などが上昇したため、前月比0.7%の上昇。

(季節調整済、前月比、%、%ポイント)



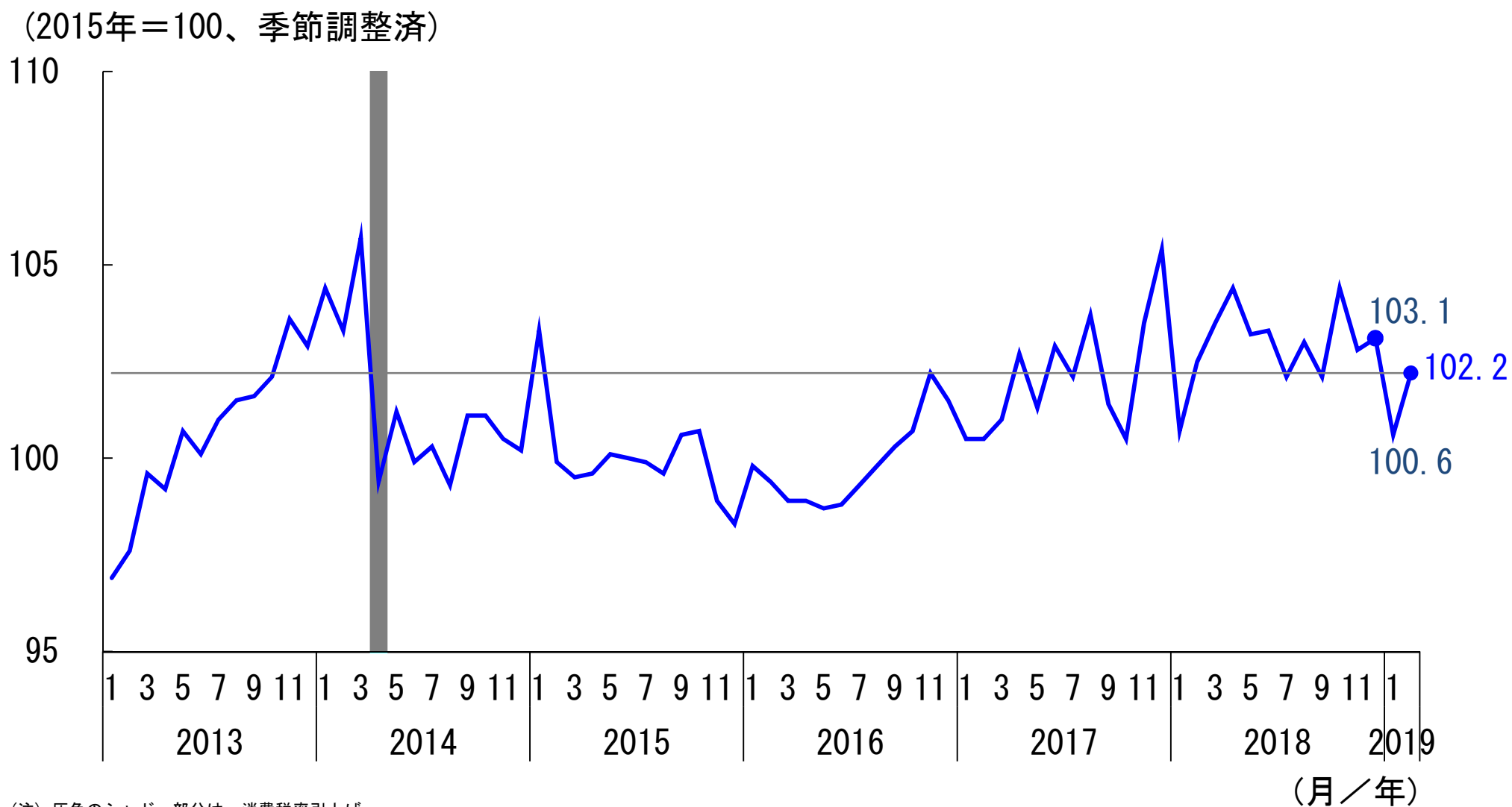
輸出向け出荷前年比 財別の影響度合い

- 2018年の輸出向け出荷を財別にみると、資本財などが上昇。

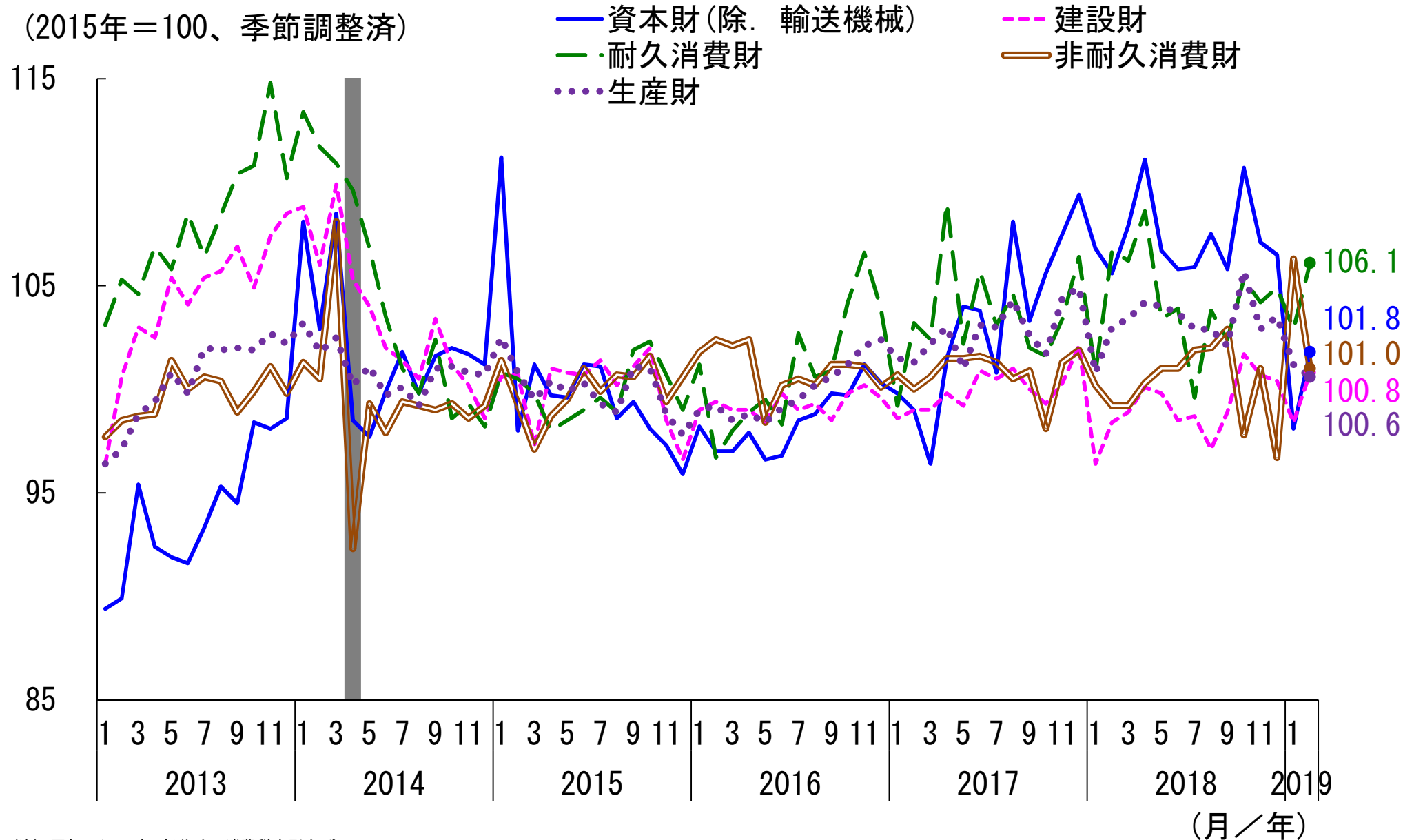


鋳工業出荷指数の動向

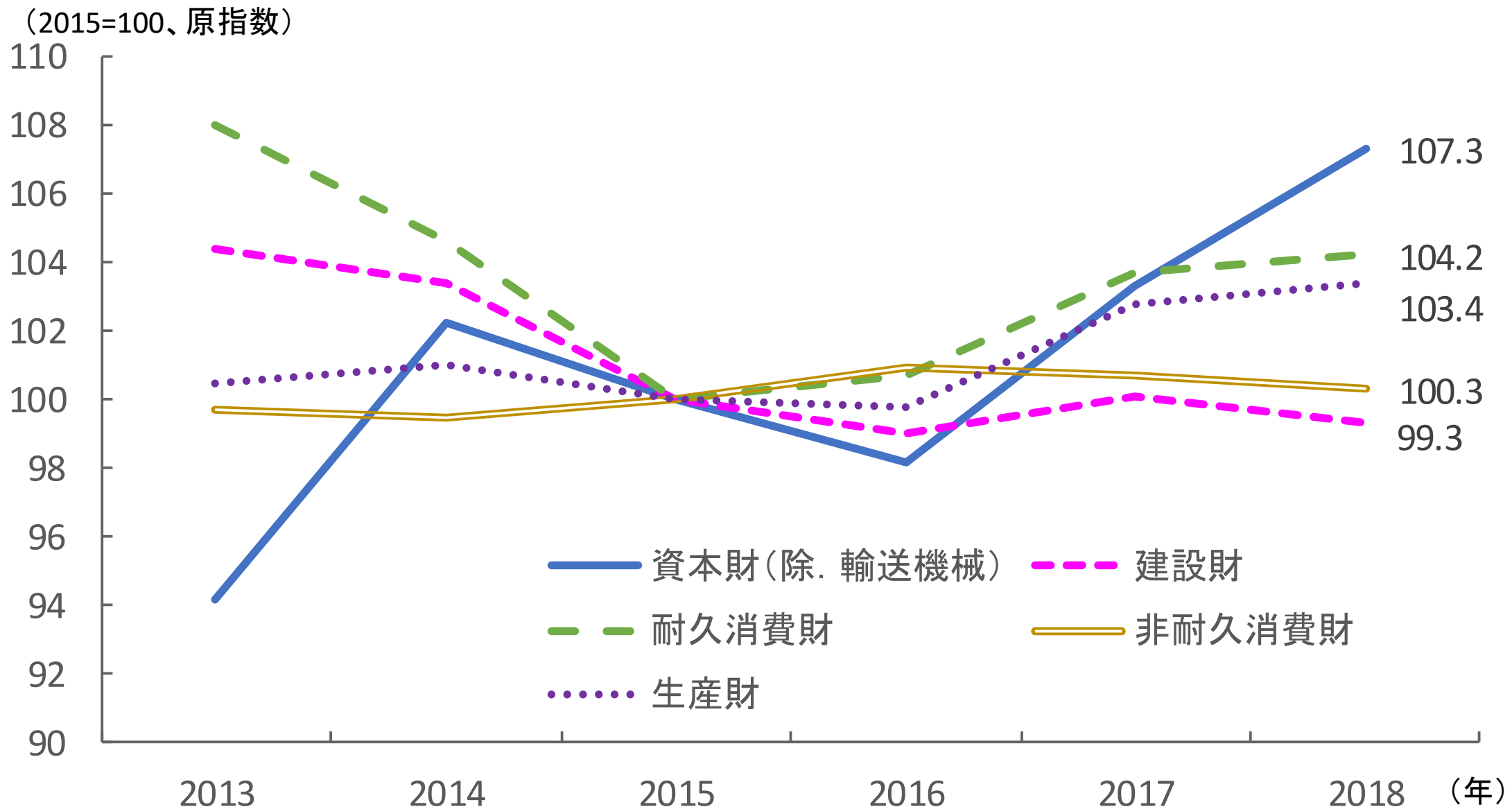
・ 2019年2月の鋳工業出荷指数は、102.2（前月比1.6%）と2か月ぶりの上昇。



財別出荷指数の動向



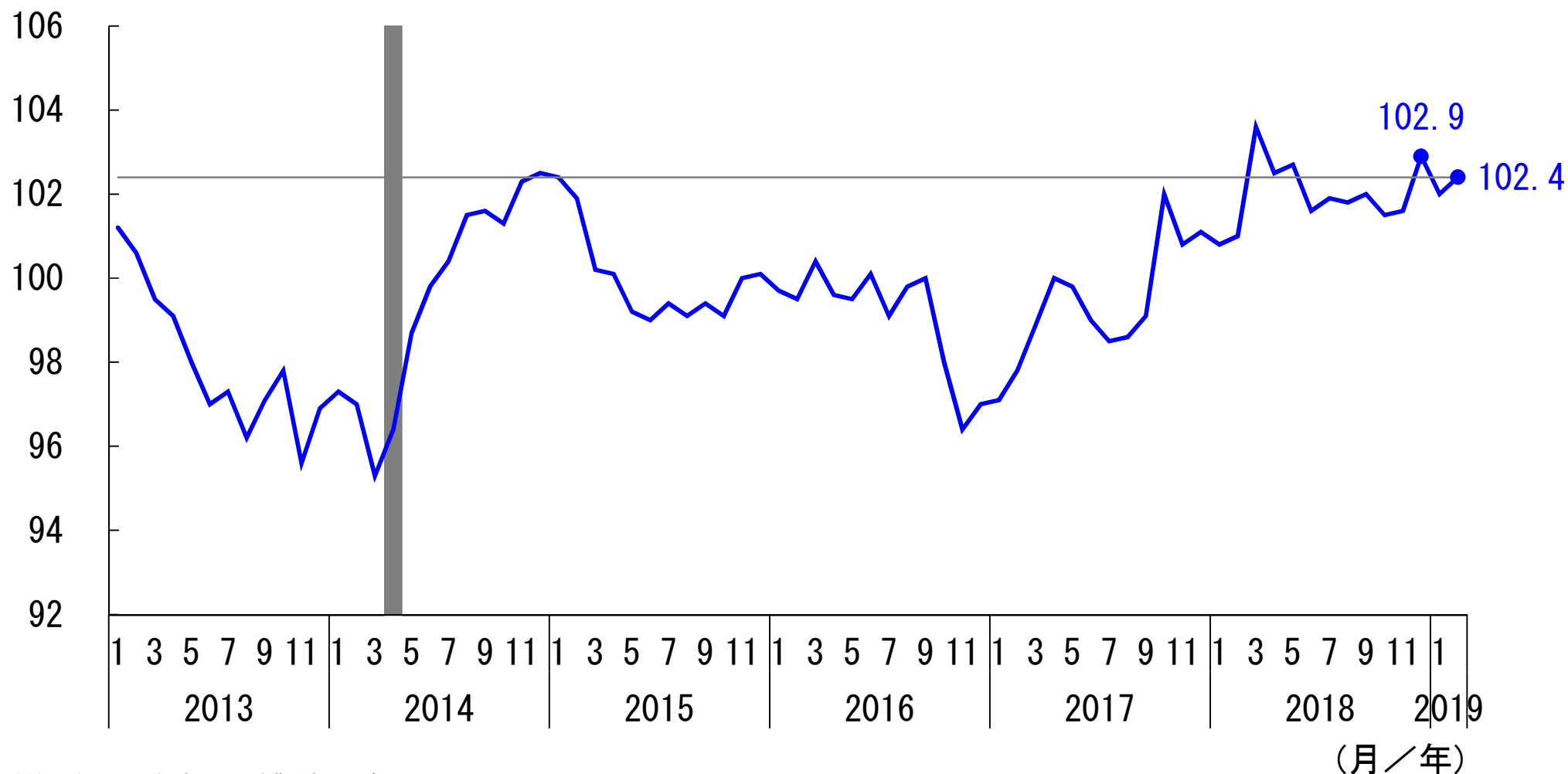
鉱工業財別出荷指数の動向（年ベース）



鋁工業在庫指数の動向

- ・ 2019年2月の在庫指数は、102.4(前月比0.4%)と2か月ぶりの上昇。
- ・ 2018年12月の102.9以来の指数水準。

(2015年=100、季節調整済)

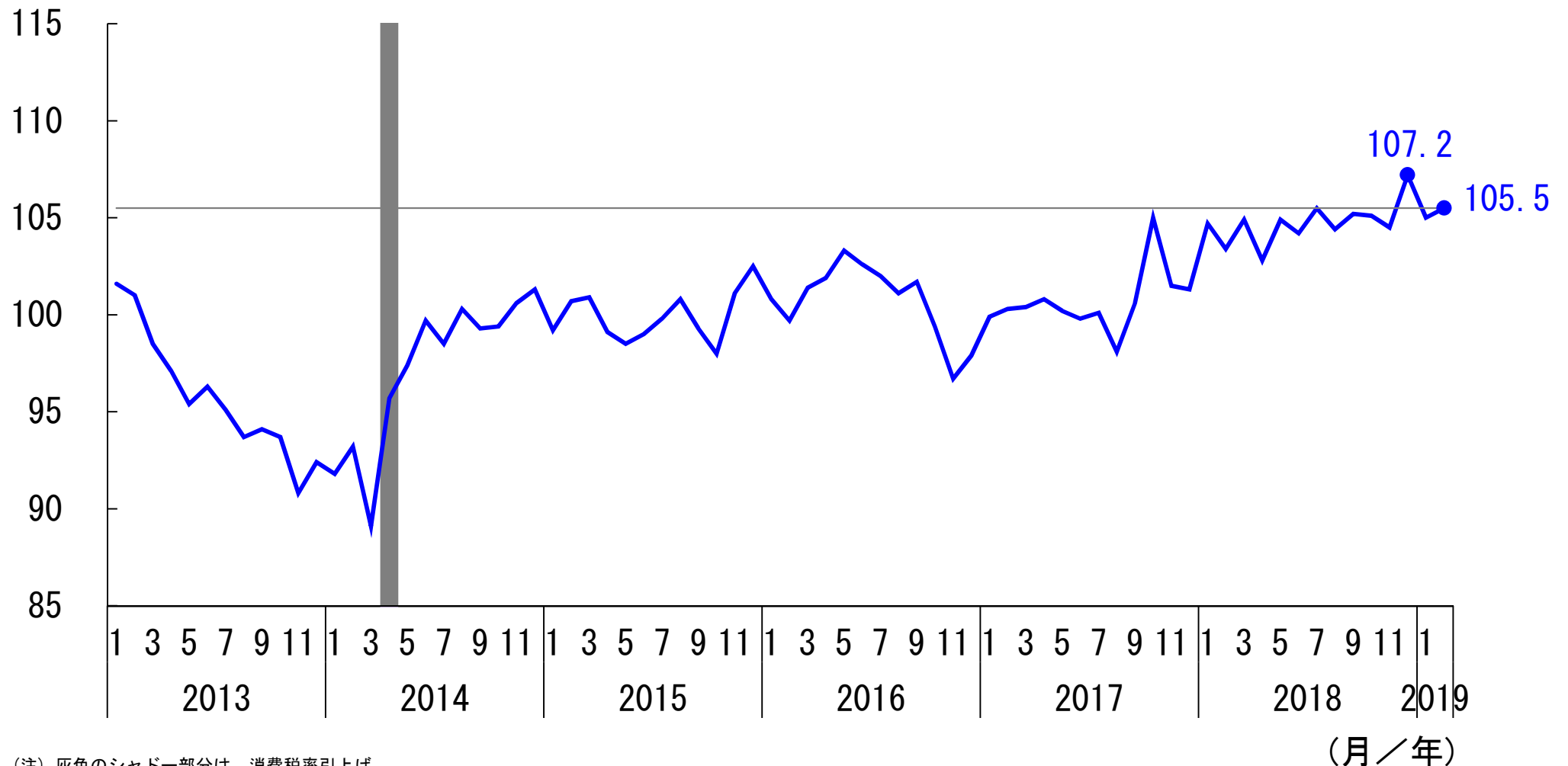


(注) 灰色のシャドー部分は、消費税率引上げ。

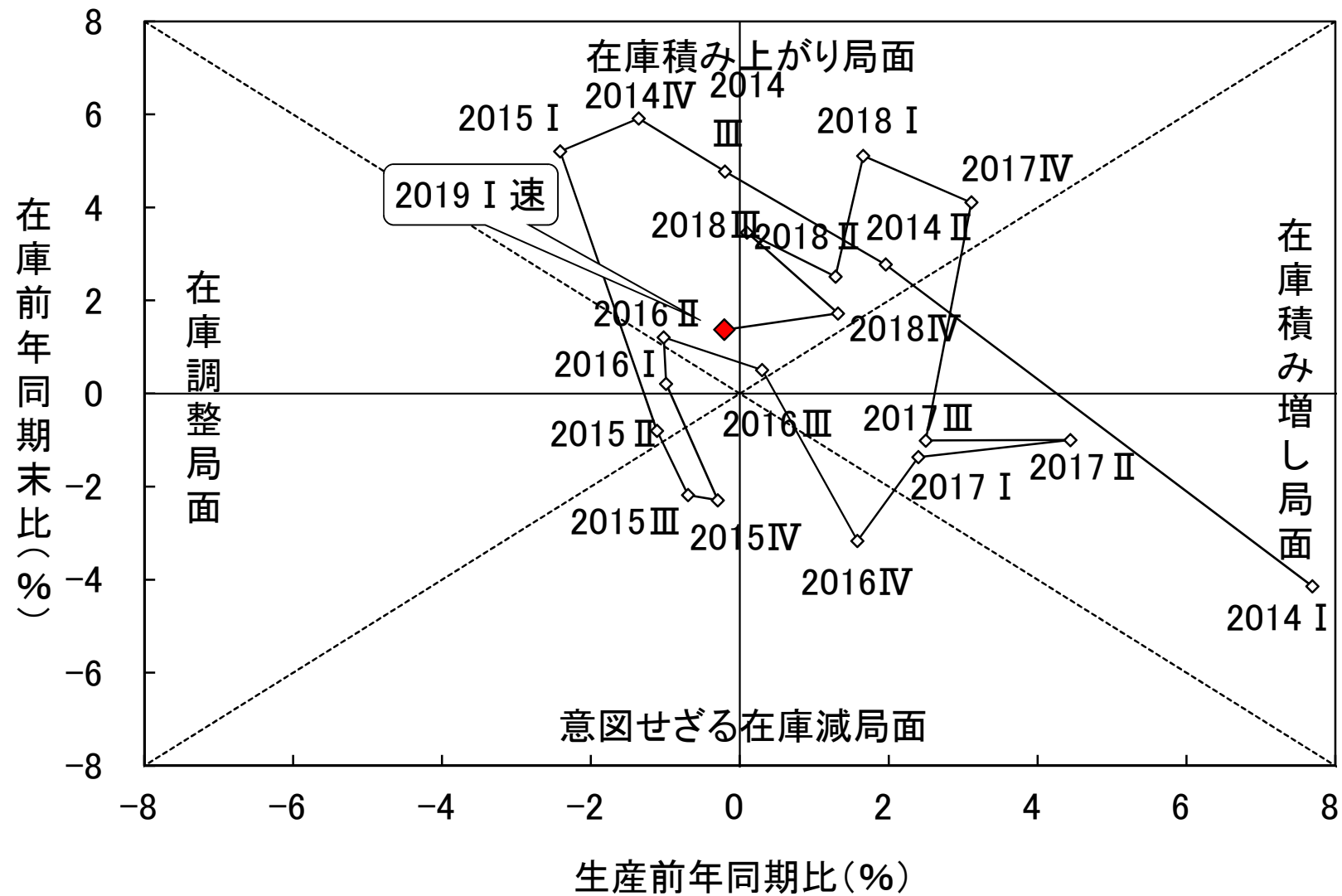
鋁工業在庫率指数の動向

- ・ 2019年2月の在庫率指数は、105.5(前月比0.5%)と2か月ぶりの上昇。
- ・ 2018年12月の107.2以来の指数水準。

(2015年=100、季節調整済)



鉱工業の在庫循環図



(注) 「2019 I 速」の生産は1月、2月の平均値、在庫は2月末の値を使用。

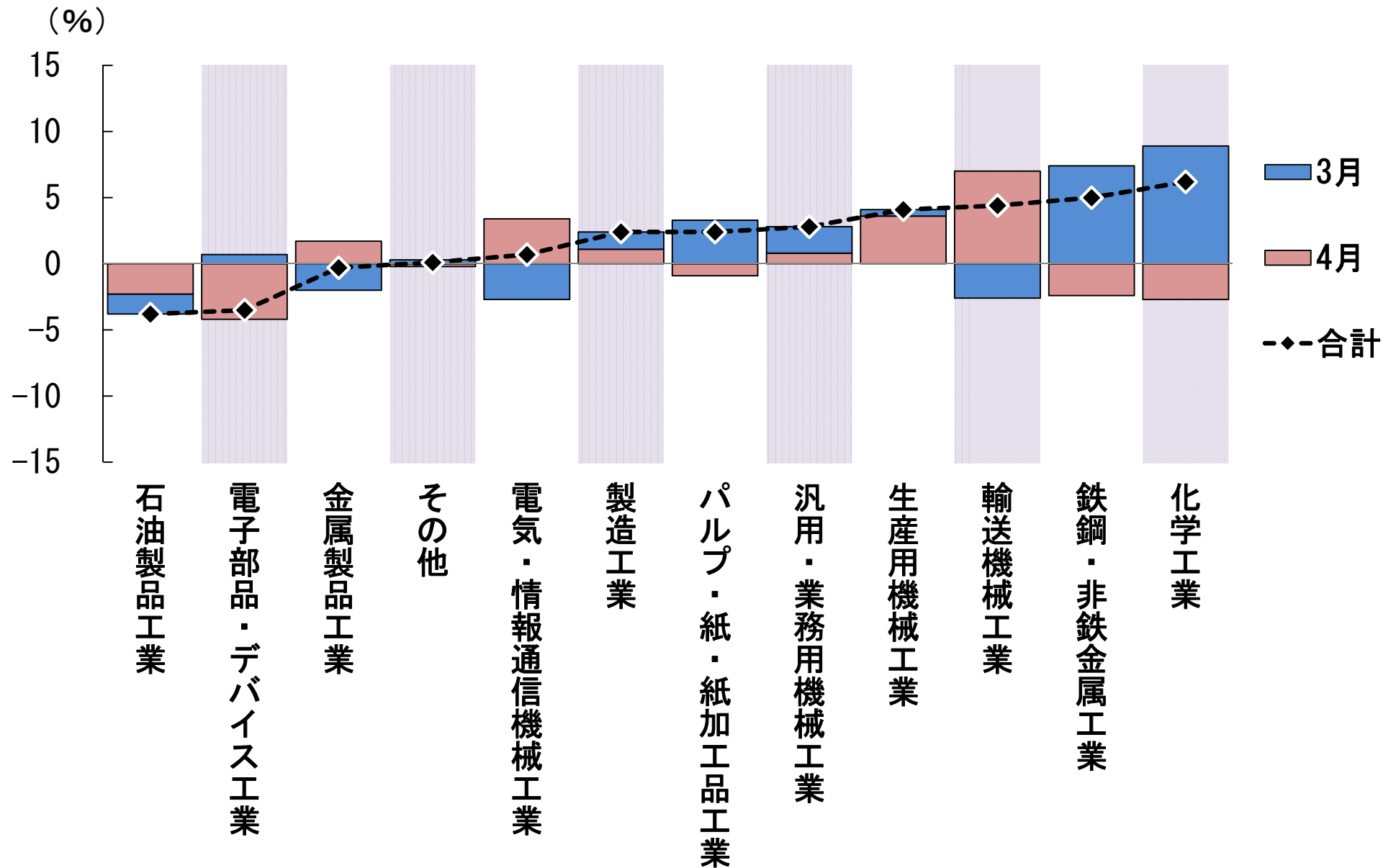
製造工業生産予測指数（季節調整済前月比（％））

	2019年3月見込み	2019年4月見込み
2019年3月調査(今回)	1.3%	1.1%
2019年2月調査(前回)	-1.6%	

製造工業生産予測指数の補正值（季節調整済前月比（％））

	補正值	予測調査結果
3月前月比	0.4% (-0.6%～1.5%)	1.3%

2か月の生産予測伸び率（製造工業生産予測指数）



2019年3月生産計画の寄与順位表

上昇寄与業種	計画前月比
化学工業	8.9%
鉄鋼・非鉄金属工業	7.4%
汎用・業務用機械工業	2.0%
パルプ・紙・紙加工品工業	3.3%
生産用機械工業	0.5%
電子部品・デバイス工業	0.7%
その他	0.3%

低下寄与業種	計画前月比
石油製品工業	-1.5%
金属製品工業	-2.0%
電気・情報通信機械工業	-2.7%
輸送機械工業	-2.6%

（注）低下寄与業種は、一番下が最も低下寄与（影響度）が大きくなるように並んでいます。

2019年4月生産計画の寄与順位表

上昇寄与業種	計画前月比
輸送機械工業	7.0%
生産用機械工業	3.6%
電気・情報通信機械工業	3.4%
金属製品工業	1.7%
汎用・業務用機械工業	0.8%
低下寄与業種	計画前月比
その他	-0.2%

低下寄与業種	計画前月比
パルプ・紙・紙加工品工業	-0.9%
石油製品工業	-2.3%
鉄鋼・非鉄金属工業	-2.4%
電子部品・デバイス工業	-4.2%
化学工業	-2.7%

（注）低下寄与業種は、一番下が最も低下寄与（影響度）が大きくなるように並んでいます。

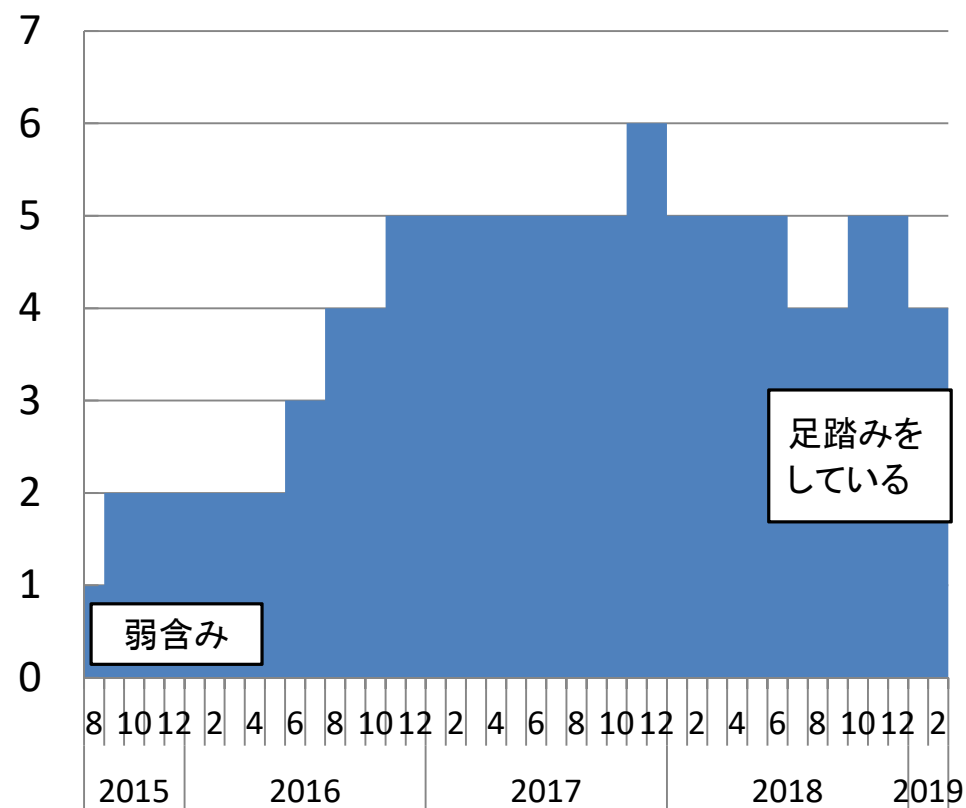
2019年2月の鉱工業生産の基調判断

「生産は足踏みをしている」

基調判断の推移

- ・2015年8月
「生産は弱含み」
- ・2015年9月～2016年5月
「生産は一進一退」
- ・2016年6月、7月
「生産は一進一退だが、一部に持ち直し」
- ・2016年8月～10月
「生産は緩やかな持ち直しの動き」
- ・2016年11月～2017年10月
「生産は持ち直しの動き」
- ・2017年11月～2017年12月
「生産は持ち直している」
- ・2018年1月～6月
「生産は緩やかな持ち直し」
- ・2018年7月～9月
「生産は緩やかに持ち直しているものの、一部に弱さがみられる」
- ・2018年10月～12月
「生産は緩やかな持ち直し」
- ・2019年1月～
「生産は足踏みをしている」

基調判断の変化



(注) 2015年8月の「生産は弱含み」を1として、基調判断が上方修正されたら一律で1上昇、下方修正されたら一律で1低下というルールで作成。

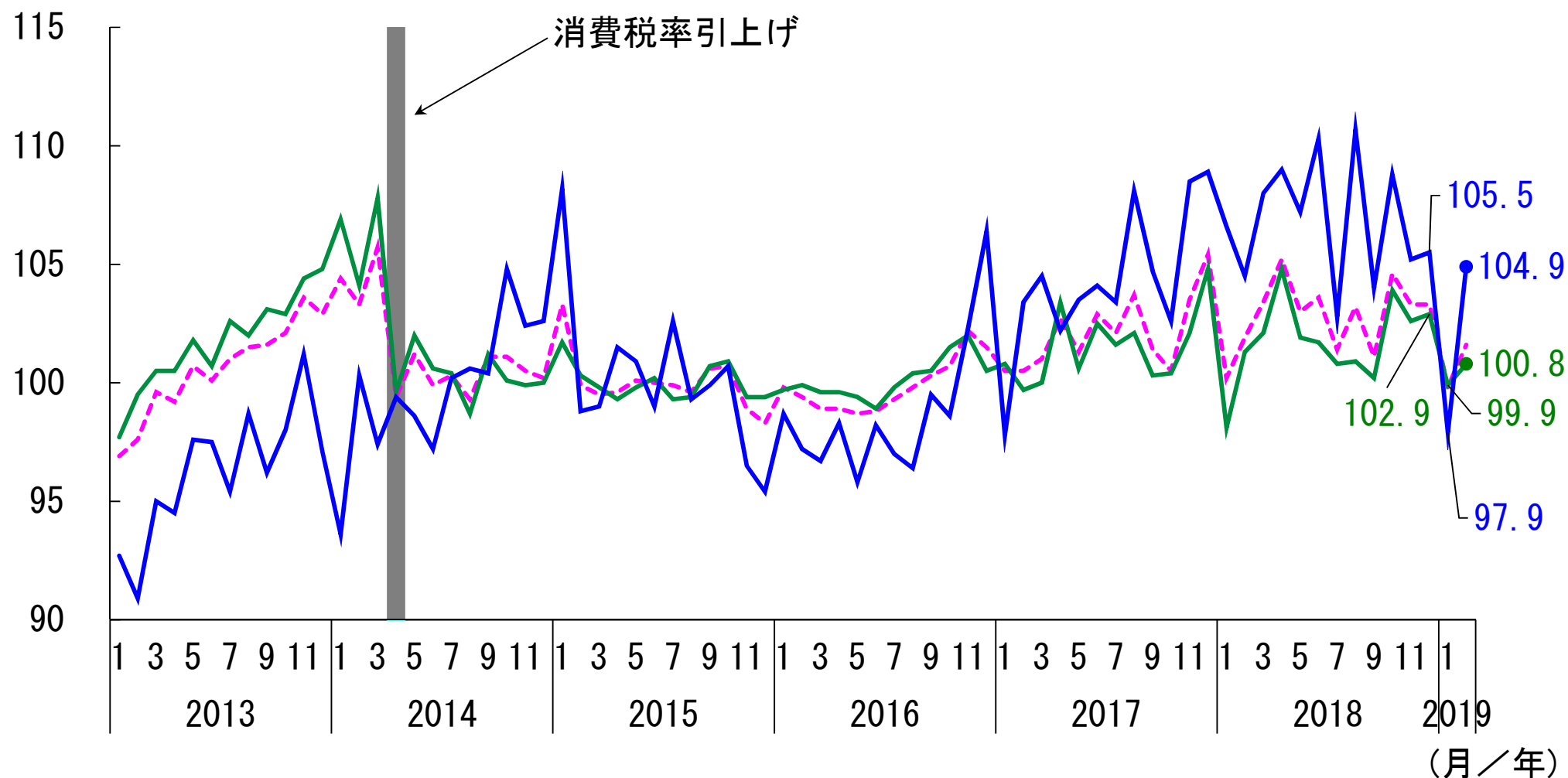
国内向け／輸出向け出荷の動向

国内向け／輸出向け出荷の動向

・2019年2月の鉱工業出荷を国内向け／輸出向け別にみると、国内向けは100.8(前月比0.9%)と2か月ぶりの上昇、輸出向けは104.9(前月比7.2%)と2か月ぶりの上昇。

(2015年=100、季節調整済)

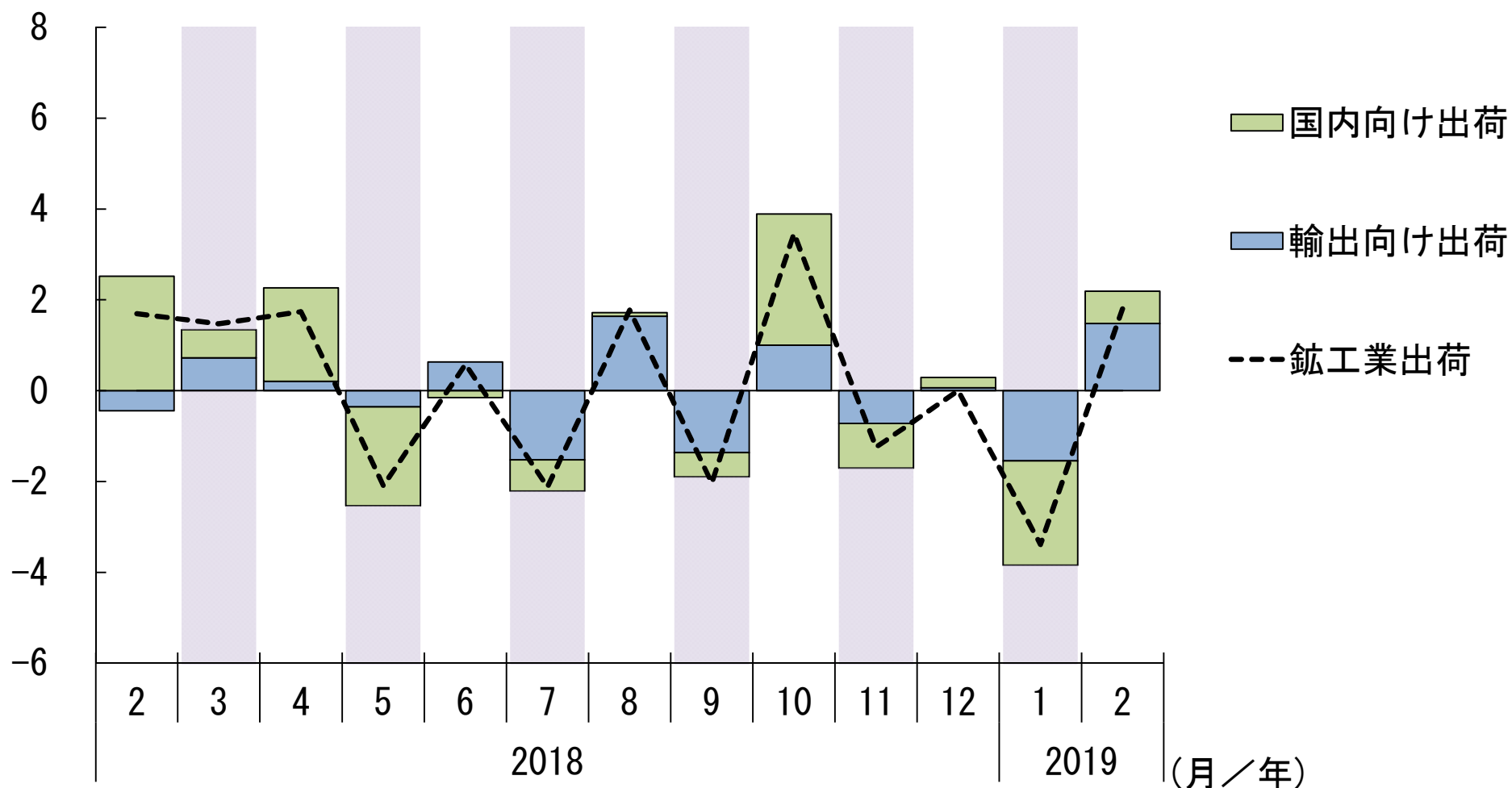
--- 鉱工業出荷 — 国内向け — 輸出向け



鉍工業出荷前月比 国内向け／輸出向け別の影響度合い

・2019年2月の鉍工業出荷は国内向け、輸出向けともに上昇したが、特に輸出向け出荷の上昇により、前月比1.8%の上昇。

(季節調整済、前月比、%、%ポイント)

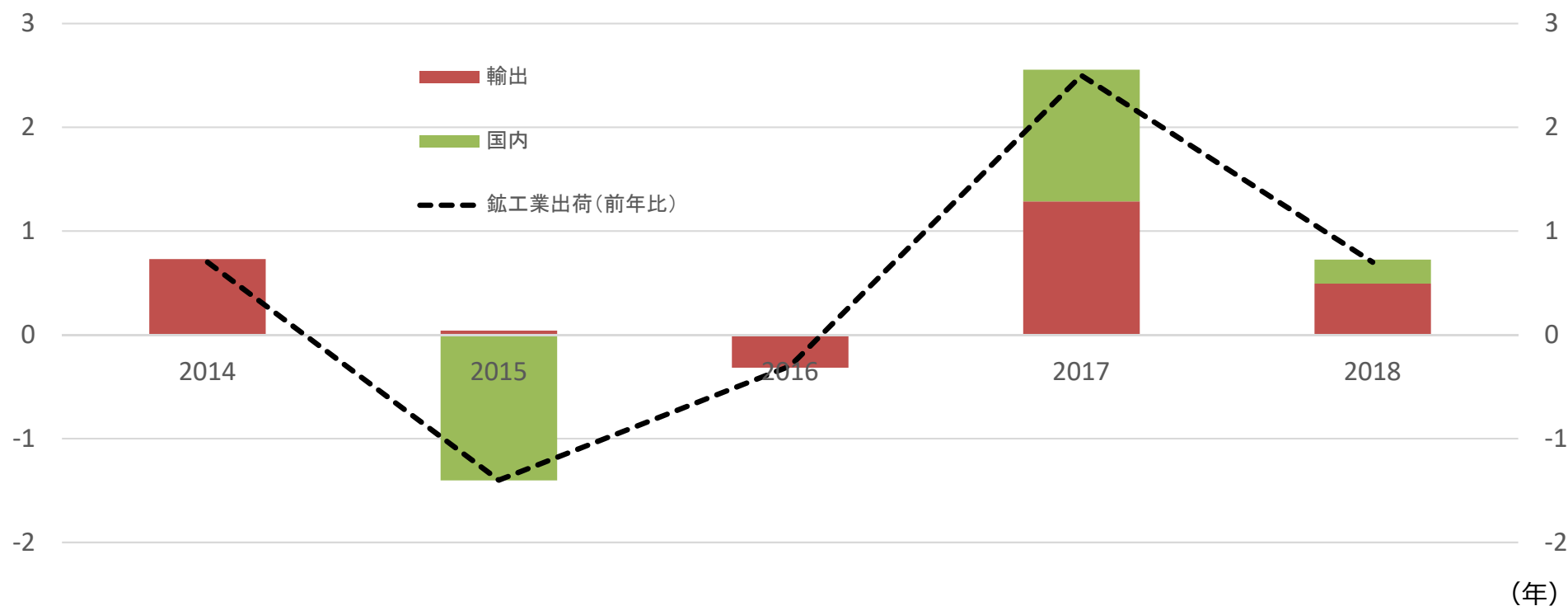


鉍工業出荷前年比 国内向け／輸出向け別の影響度合い

- 鉍工業出荷指数（原指数）の前年比 2 年連続の上昇において、国内向け出荷、輸出向けとも上昇寄与。

鉍工業出荷指数の前年比及び寄与度の推移

（2015年 = 100、原指数、前年比、%、%ポイント）



（資料）「鉍工業出荷内訳表」

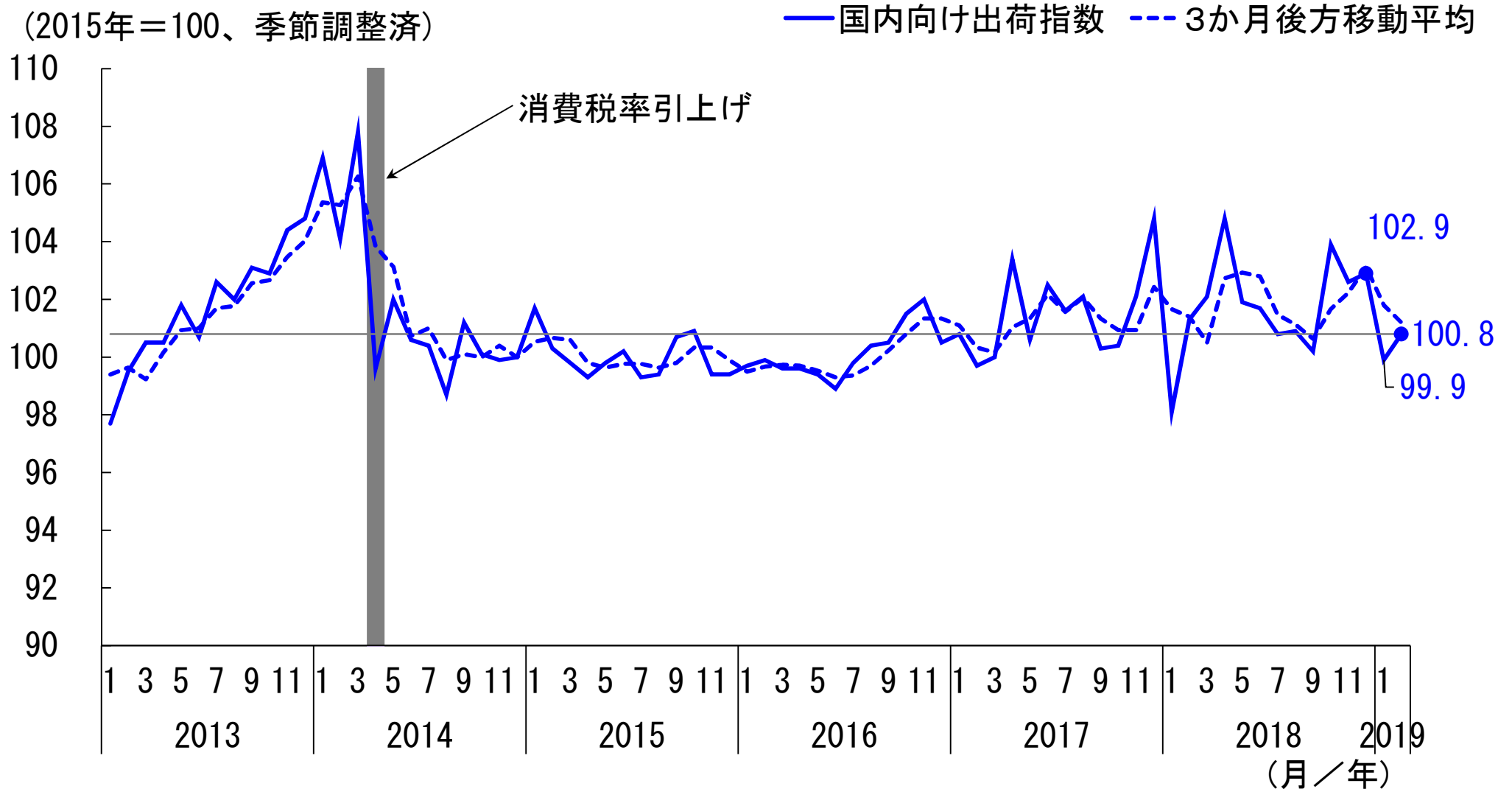
主要業種、財の出荷前月比 国内／輸出向け出荷の影響度合い

業種別分類	出荷前月比 (%)	国内寄与度 (%ポイント)	輸出寄与度 (%ポイント)
鉄鋼・非鉄金属工業	1.5	0.45	0.76
生産用機械工業	4.2	-1.06	3.67
汎用・業務用機械工業	-0.8	0.99	-1.46
電気・情報通信機械工業	-0.7	1.81	-2.03
輸送機械工業	10.4	6.49	5.93
化学工業(除. 医薬品)	-0.8	-2.49	0.62

財別分類	出荷前月比 (%)	国内寄与度 (%ポイント)	輸出寄与度 (%ポイント)
鉱工業用生産財	-0.7	-0.75	0.12
資本財(除. 輸送機械)	2.6	-0.40	1.59
建設財	2.4	2.01	0.01
耐久消費財	8.7	6.02	0.72
非耐久消費財	-2.3	-2.12	0.21

国内向け出荷指数の動向

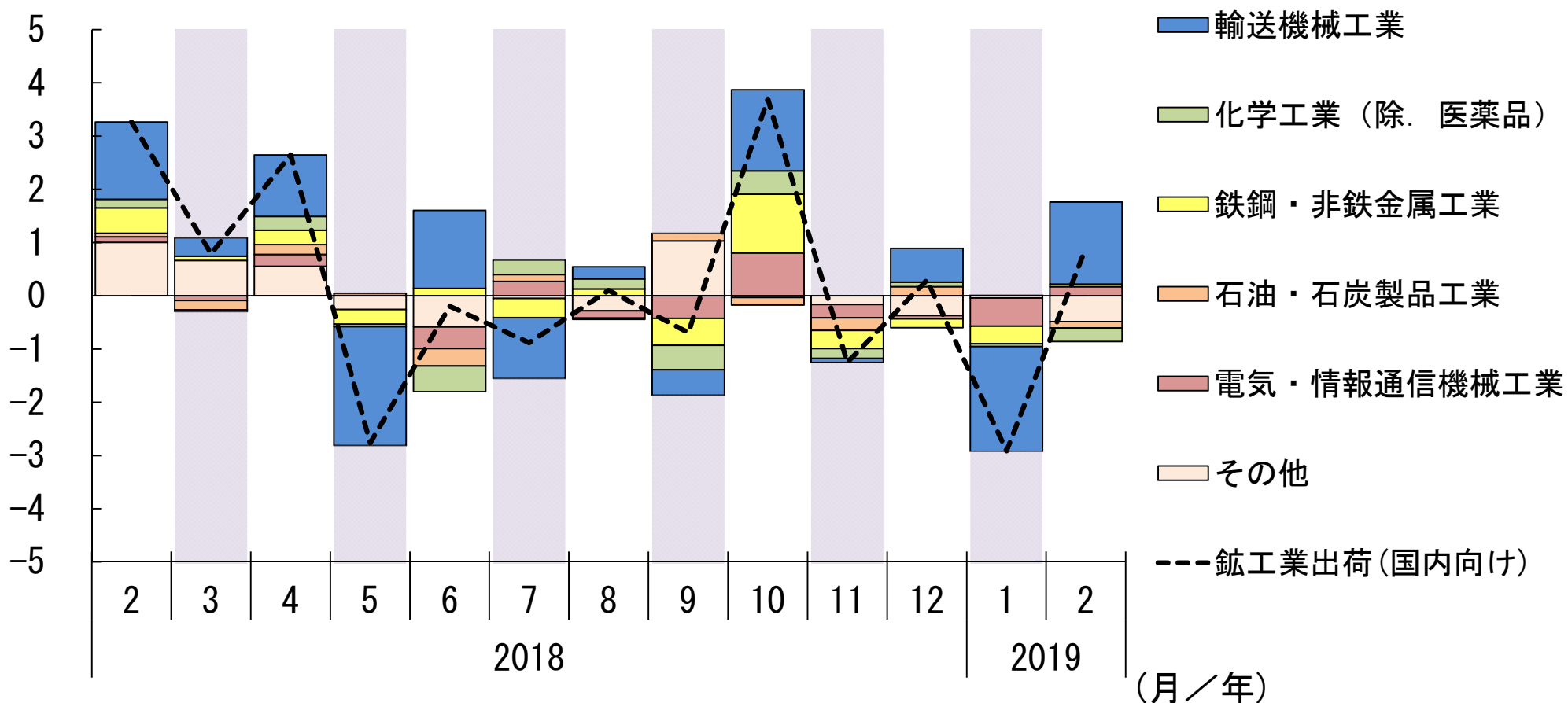
- ・ 2019年2月の国内向け出荷指数は100.8 (前月比0.9%) と2か月ぶりの上昇。
- ・ 2018年12月の102.9以来の指数水準。



国内向け出荷前月比 業種別の影響度合い

- 2019年2月の国内向け出荷を主要業種別にみると、化学工業（除. 医薬品）などが低下したものの、輸送機械工業などが上昇。

（季節調整済、前月比、%、%ポイント）



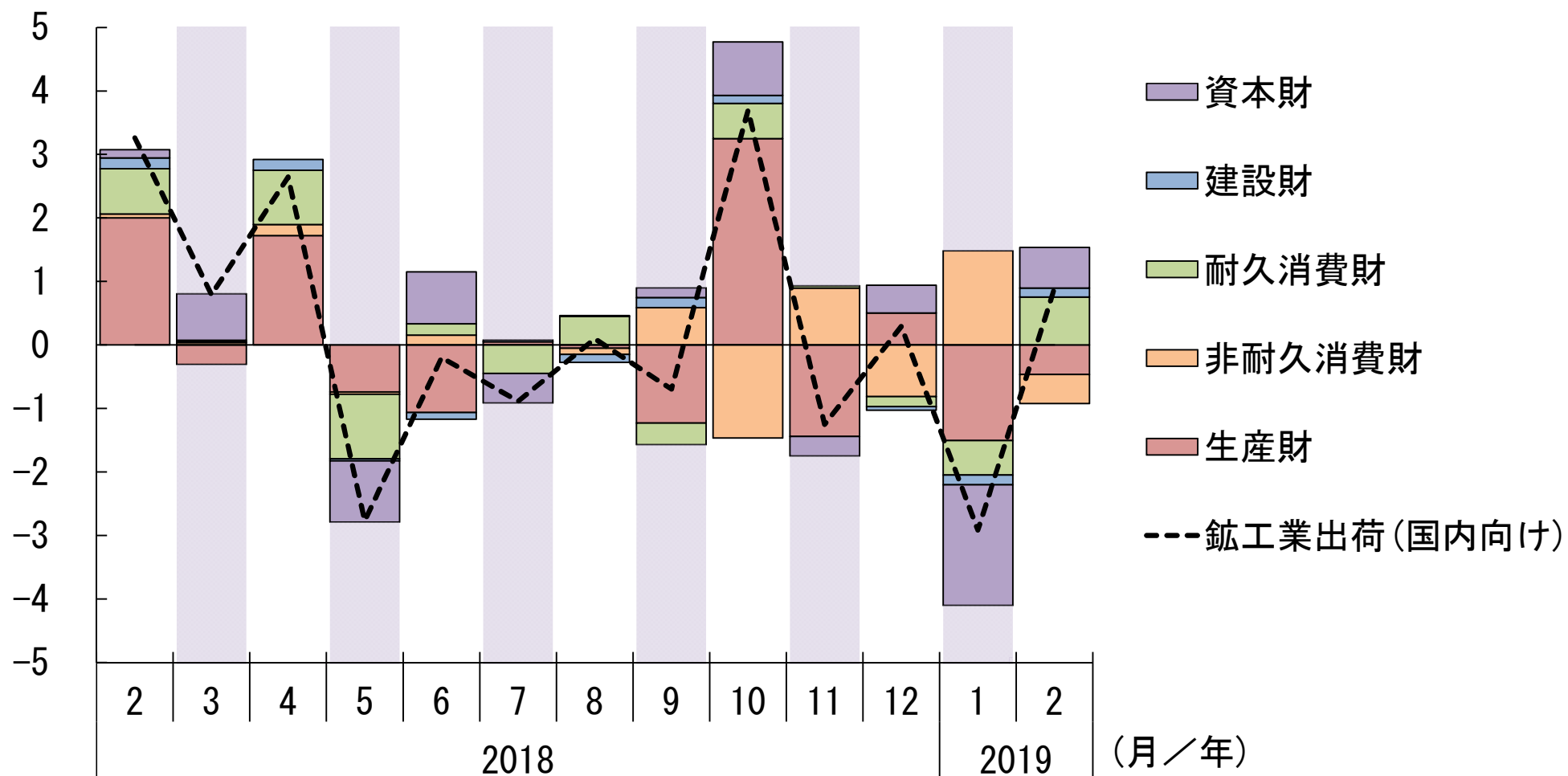
（注）主要業種とは、国内向け出荷（ウエイト7896.12）のうち、ウエイトが大きい5業種を選定。

具体的には、輸送機械工業（国内向け、ウエイト1193.18）、鉄鋼・非鉄金属工業（同、同786.21）、石油・石炭製品工業（同、同664.82）、化学工業（除. 医薬品）（同、同629.02）、電気・情報通信機械工業（同、同607.02）。

国内向け出荷前月比 財別の影響度合い

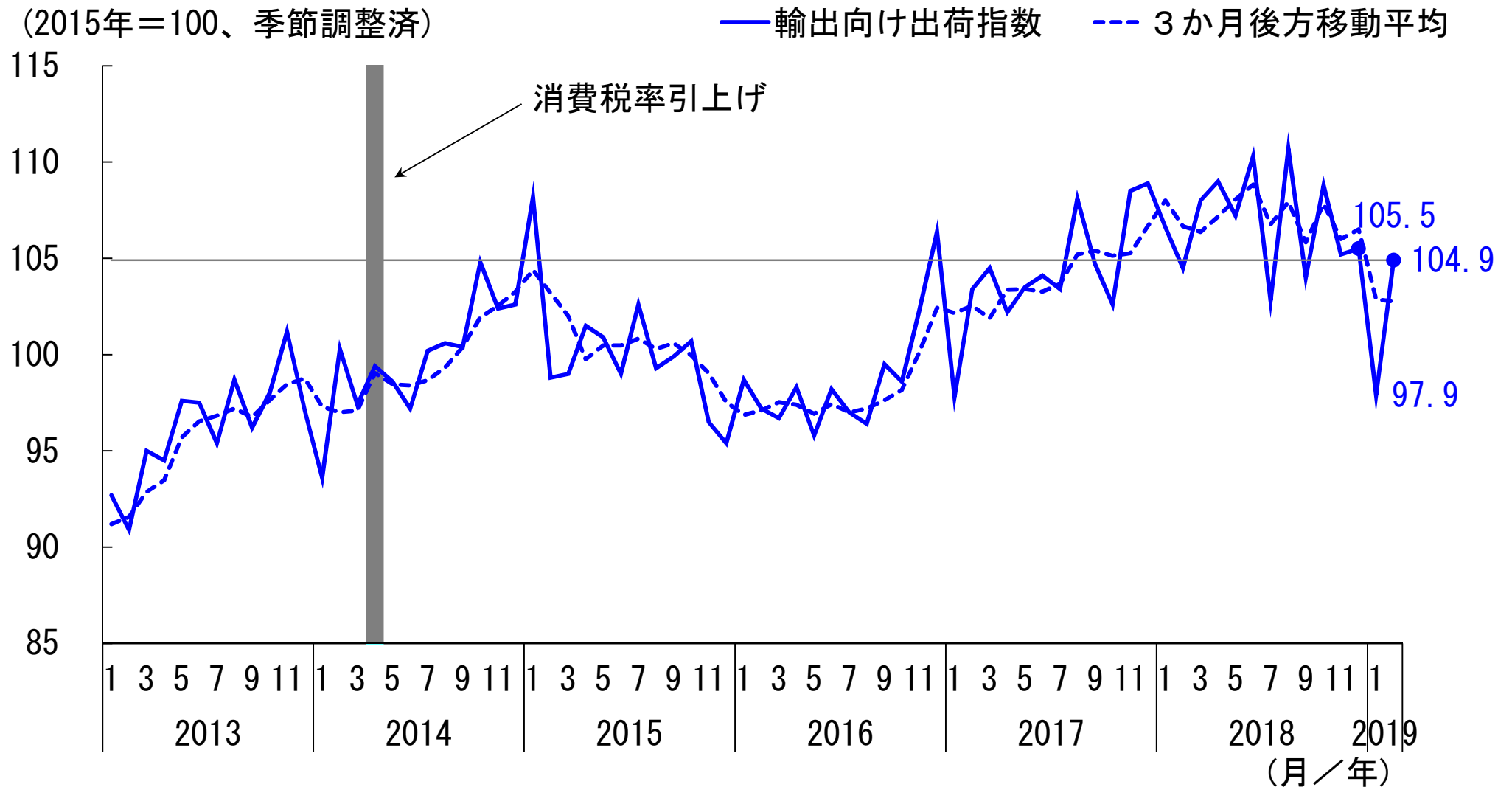
- 2019年2月の国内向け出荷を財別にみると、生産財などが低下したものの、耐久消費財などが上昇。

(季節調整済、前月比、%、%ポイント)



輸出向け出荷指数の動向

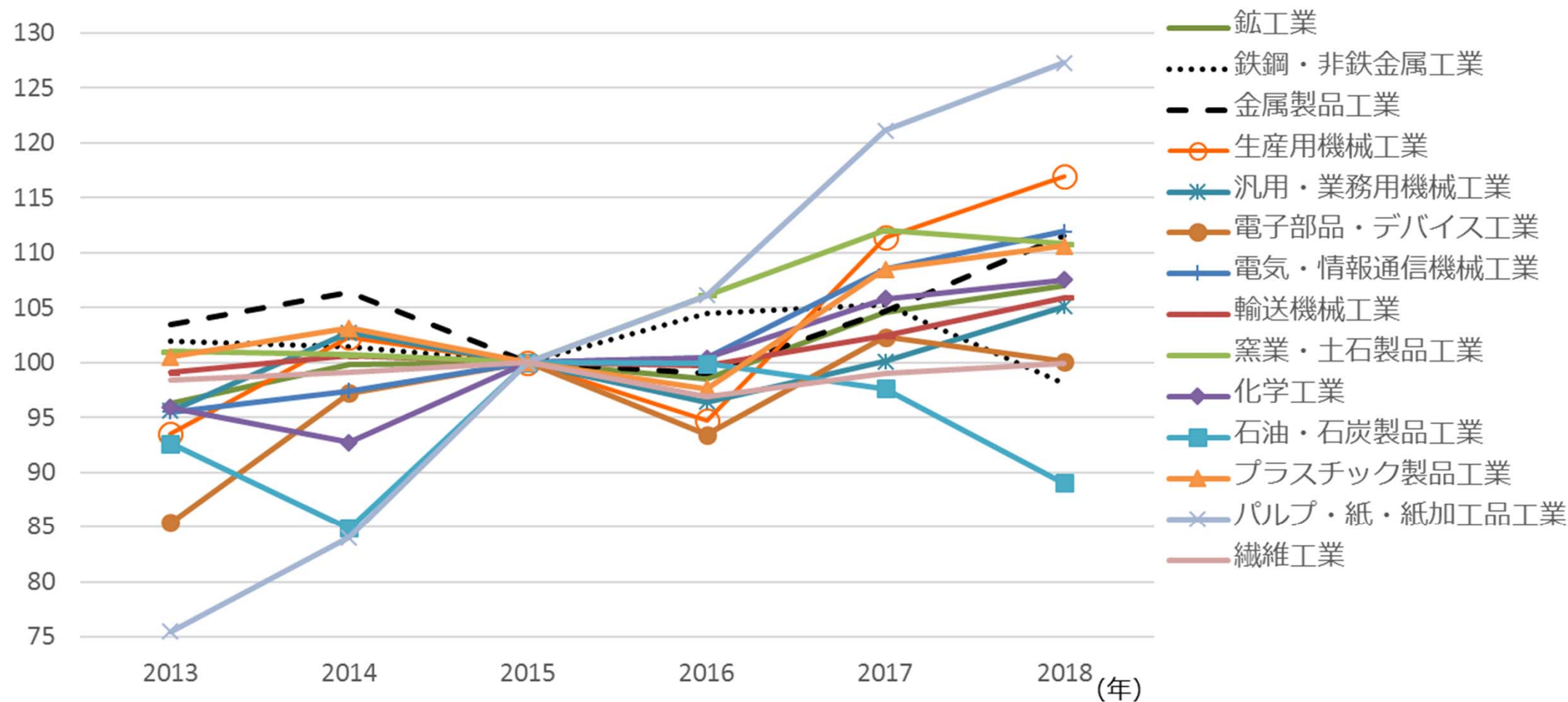
- ・ 2019年2月の輸出向け出荷指数は104.9 (前月比7.2%) と2か月ぶりの上昇。
- ・ 2018年12月の105.5以来の指数水準。



輸出向け指数の業種別推移

(2015年 = 100、原指数)

輸出向け出荷の業種別の推移

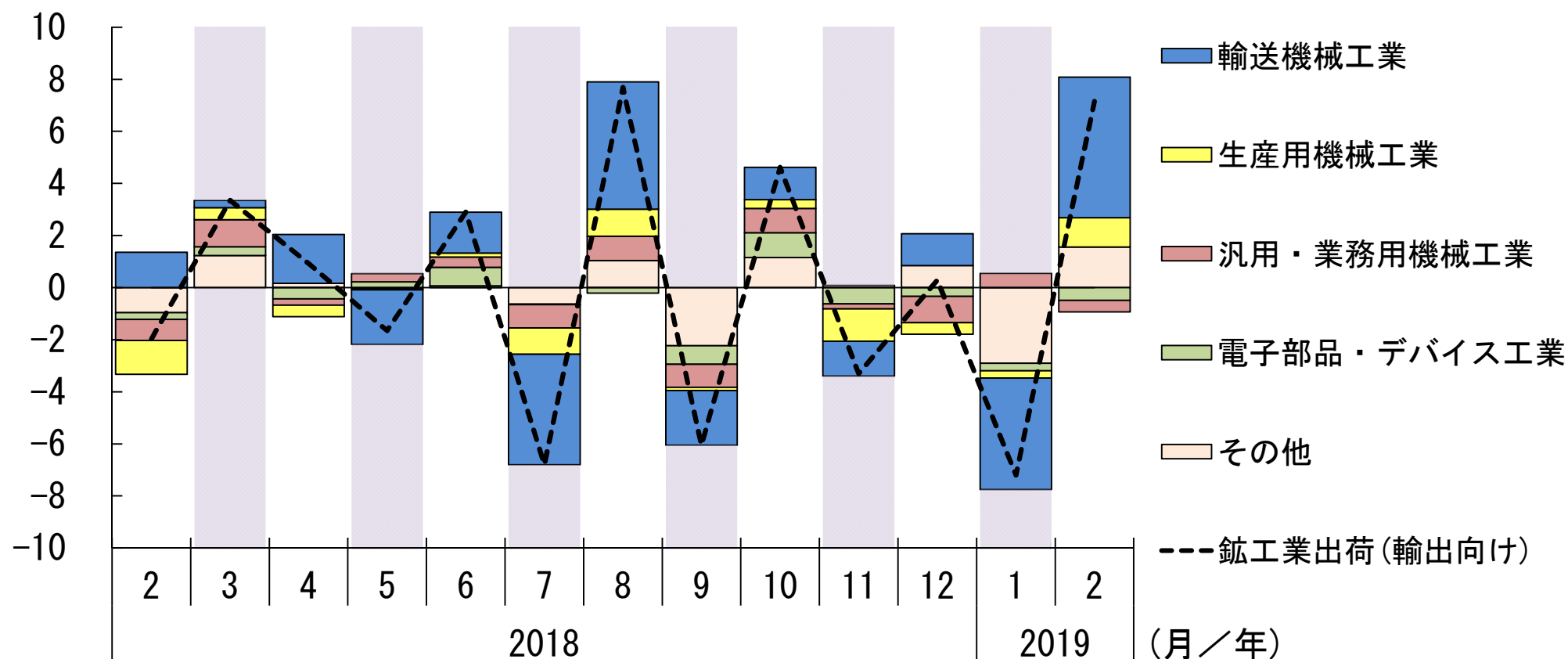


(資料) 「鉱工業出荷指数」 (経済産業省)、「貿易統計」 (財務省) により作成 (試算値)

輸出向け出荷前月比 業種別の影響度合い

- 2019年2月の輸出向け出荷を主要業種別にみると、電子部品・デバイス工業などが低下したものの、輸送機械工業などが上昇。

(季節調整済、前月比、%、%ポイント)

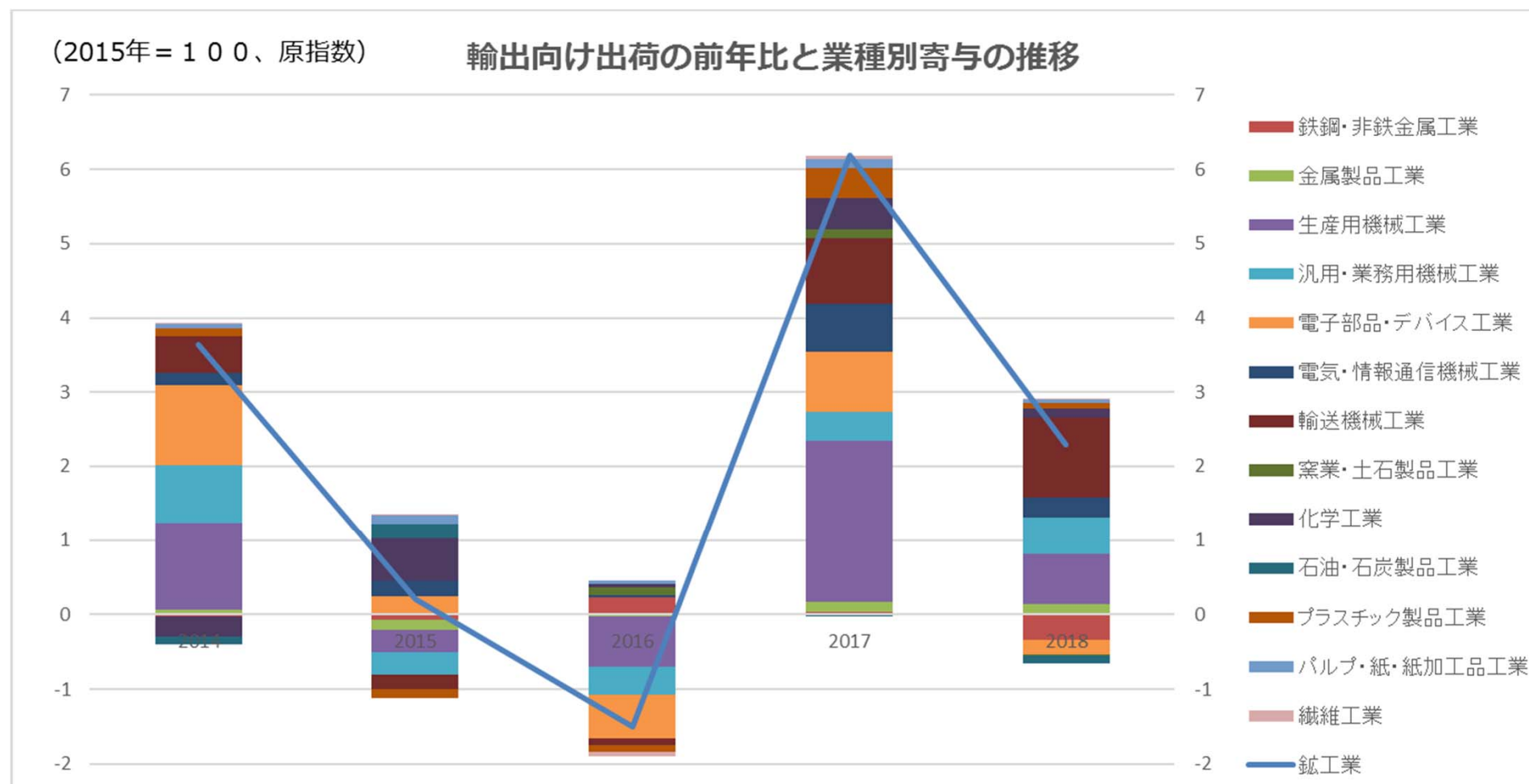


(注) 主要業種とは、輸出向け出荷(ウエイト2103.88)のうち、ウエイトが大きい業種(上位4業種)を選定。

具体的には、輸送機械工業(輸出向け、ウエイト678.22)、生産用機械工業(同、同270.38)、汎用・業務用機械工業(同、同218.87)、電子部品・デバイス工業(同、同186.86)の4業種。

輸出向け出荷の前年比と業種別寄与の推移

- 輸出向け指数の2年連続の上昇に寄与した業種をみると、2017年は生産用機械工業、輸送用機械工業、電子部品・デバイス工業等が上昇に寄与、2018年は輸送用機械工業、生産用機械工業、汎用・業務用機械工業等が上昇に寄与。

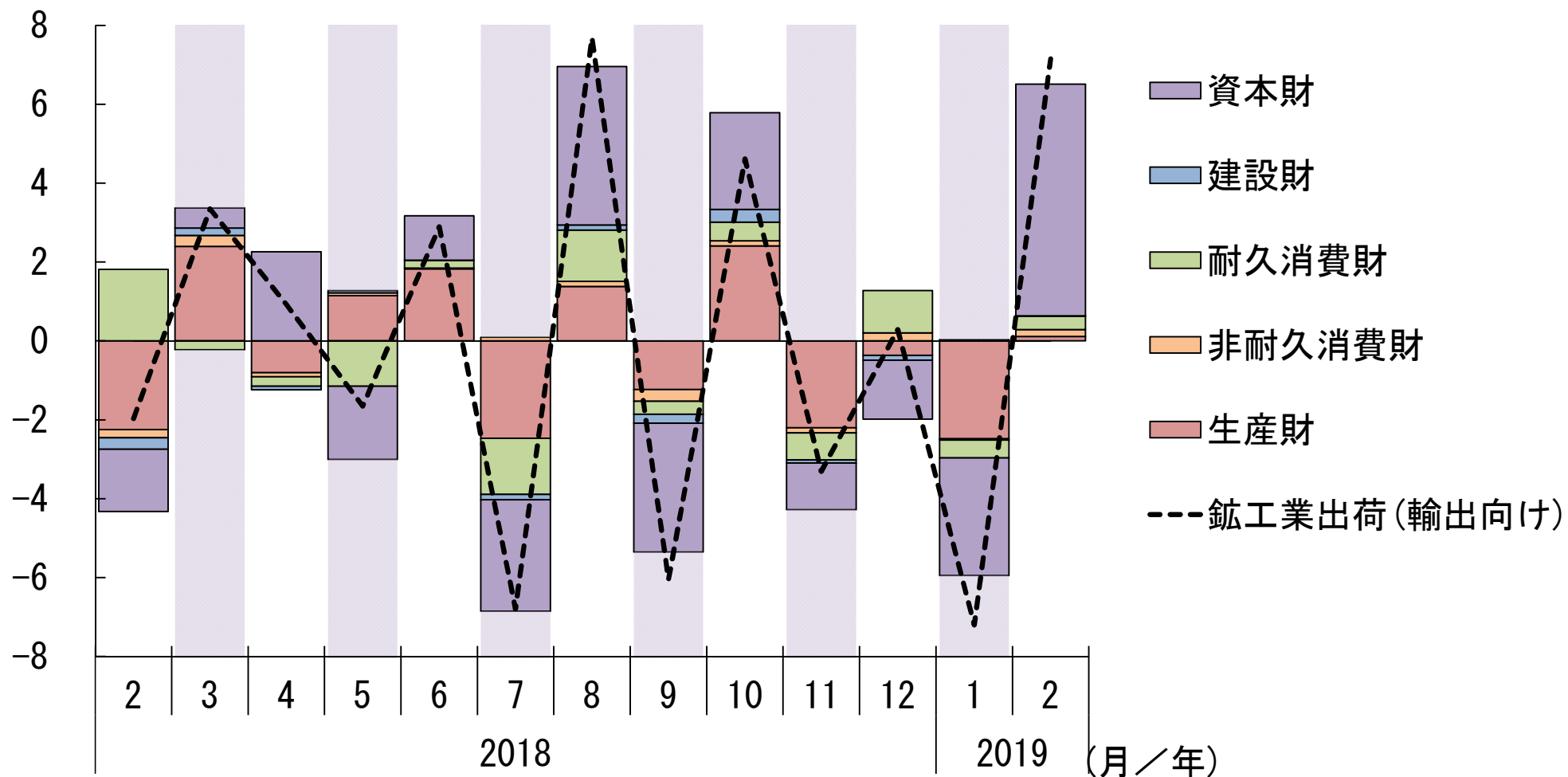


(資料) 「鉱工業出荷指数」 (経済産業省)、「貿易統計」 (財務省) により作成 (試算値)

輸出向け出荷前月比 財別の影響度合い

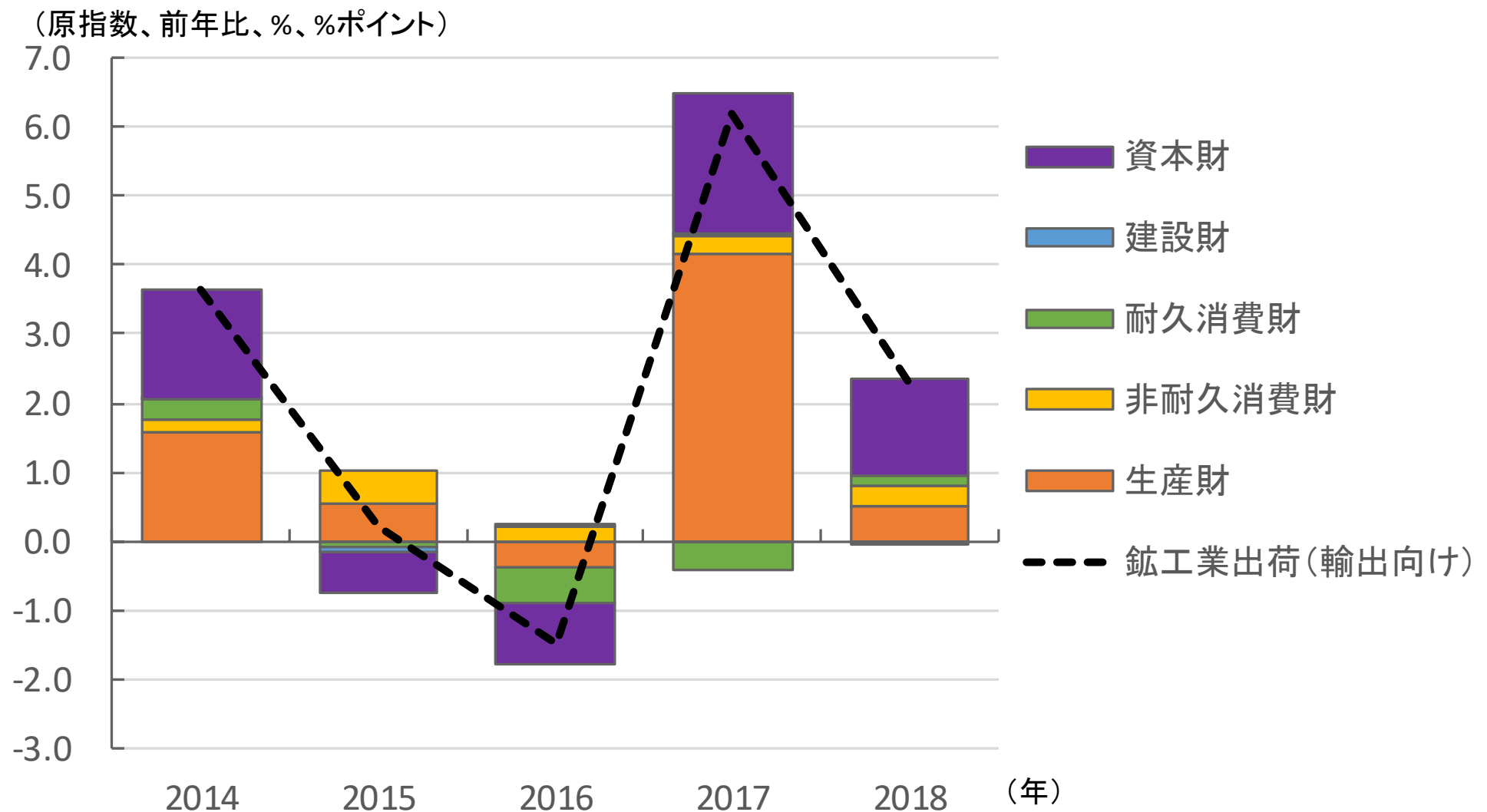
- 2019年2月の輸出向け出荷を財別にみると、資本財などが上昇。

(季節調整済、前月比、%、%ポイント)



輸出向け出荷前年比 財別の影響度合い

- 2018年の輸出向け出荷を財別にみると、資本財などが上昇。



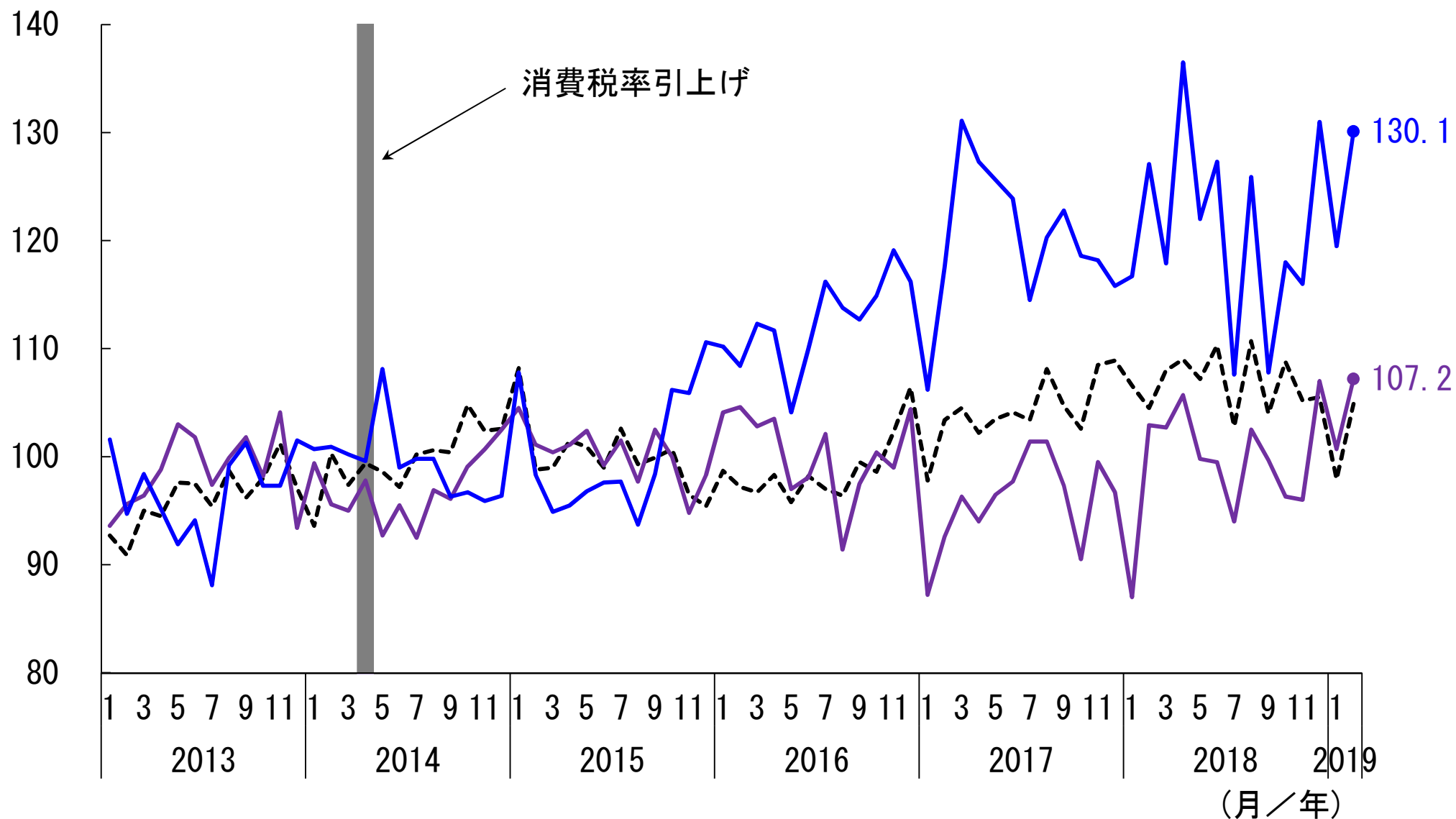
欧米向け出荷指数の動向

(2015年=100、季節調整済)

--- 輸出向け出荷

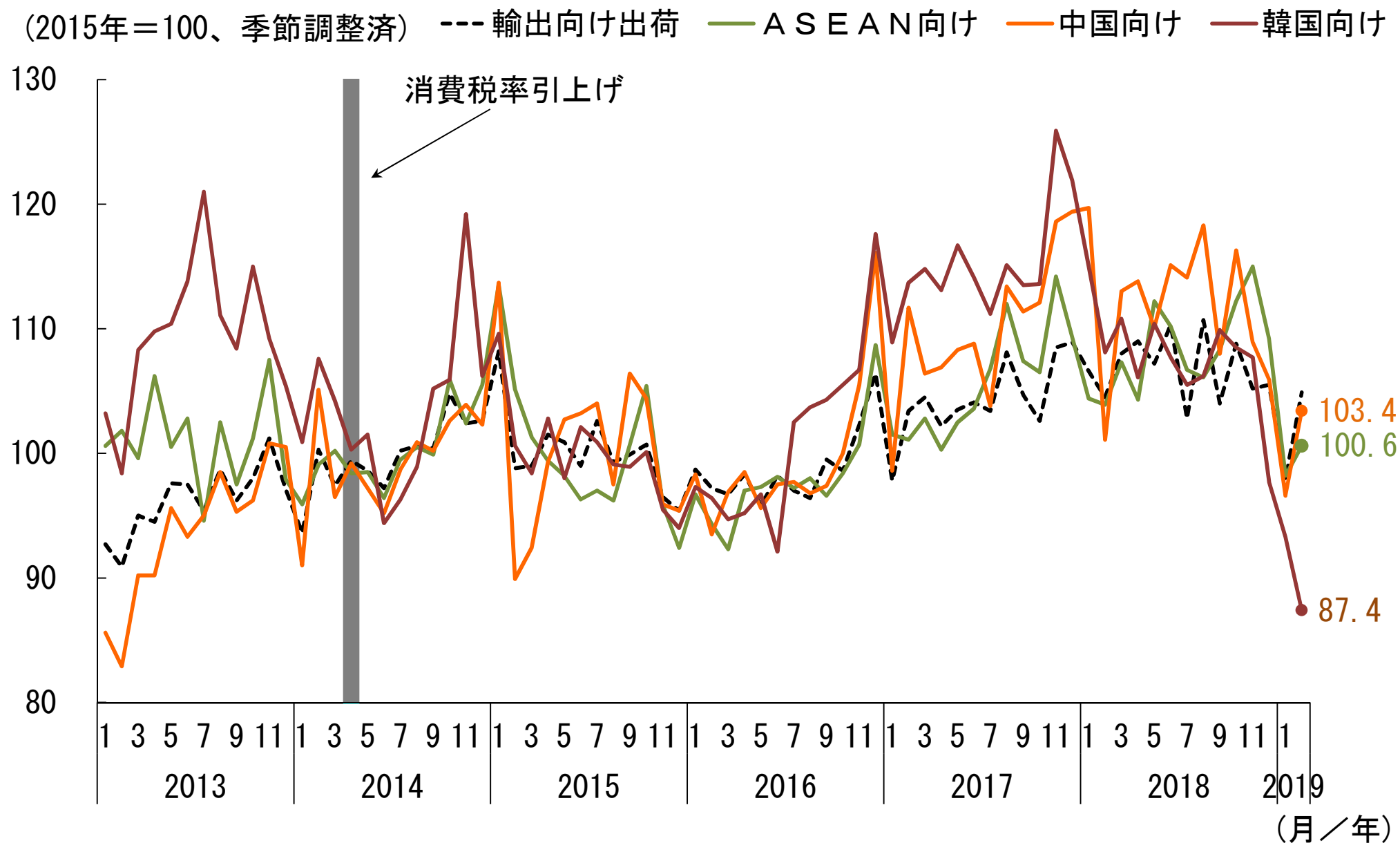
—米国向け

— 欧州向け



(注) 貿易統計に基づく試算値

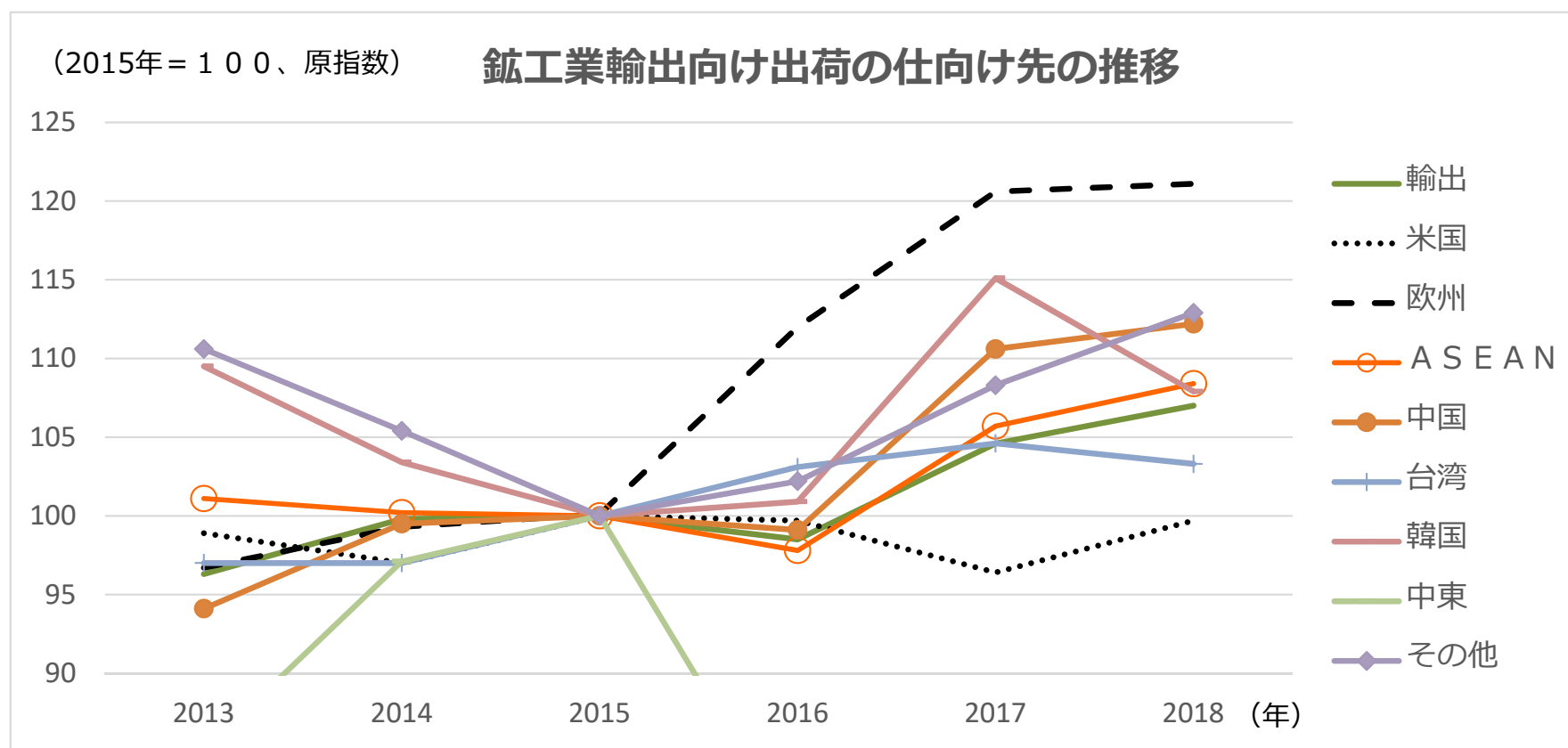
アジア向け出荷指数の動向



(注) 貿易統計に基づく試算値

輸出向け指数の仕向け先別の推移

- 鉱工業の輸出向け指数（原指数）は2年連続の上昇となった。
- 2018年の仕向け先別をみると、ほとんどの仕向け先で基準年の2015年の水準を超えており、欧州は121.1、中国は112.2などとなっている。

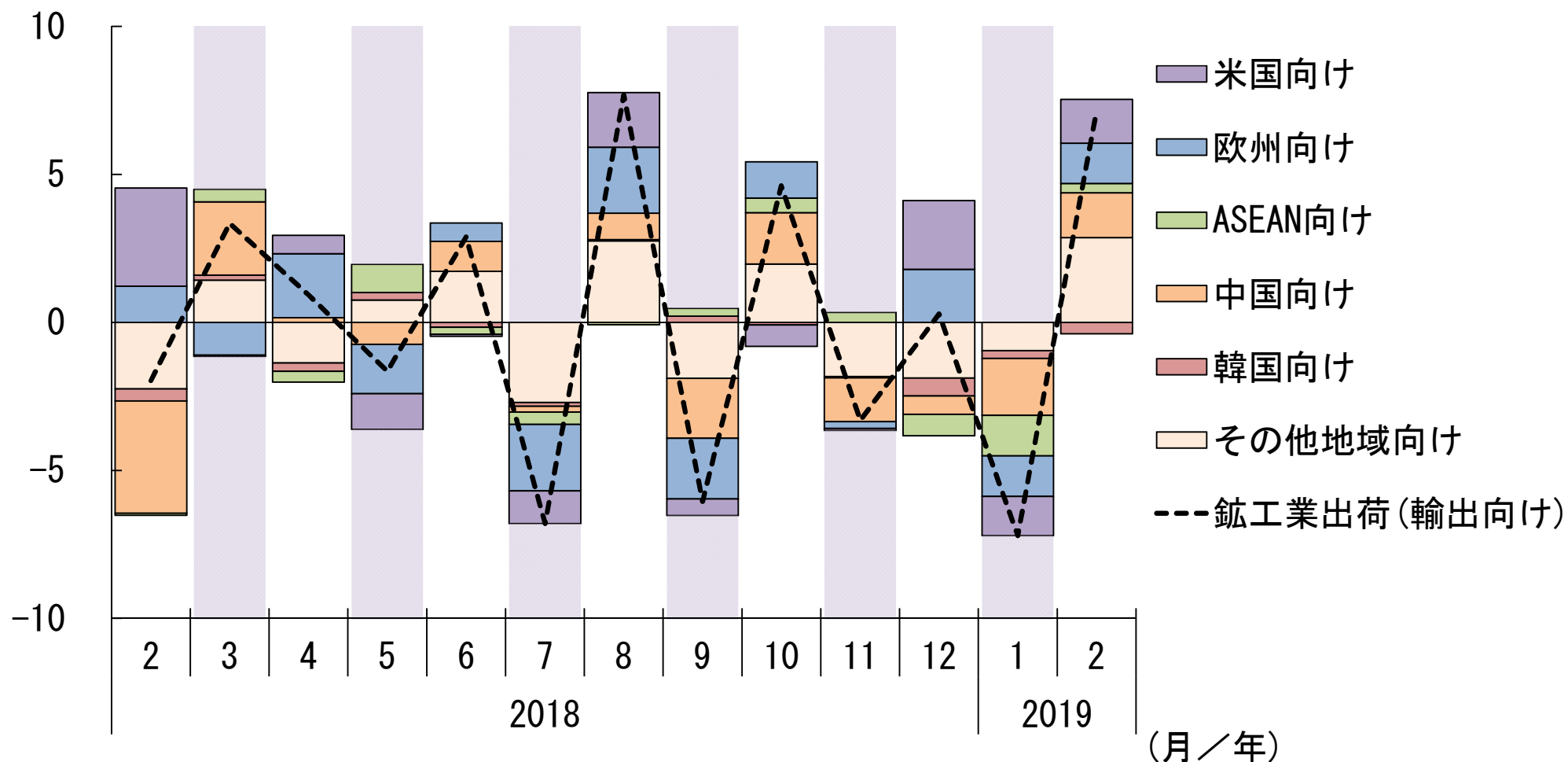


(資料) 「鉱工業出荷指数」(経済産業省)、「貿易統計」(財務省)により作成(試算値)

輸出向け出荷前月比 地域別の影響度合い

- 2019年2月の輸出向け出荷を、地域別にみると、韓国向けが低下したものの、その他地域向けなどが上昇。

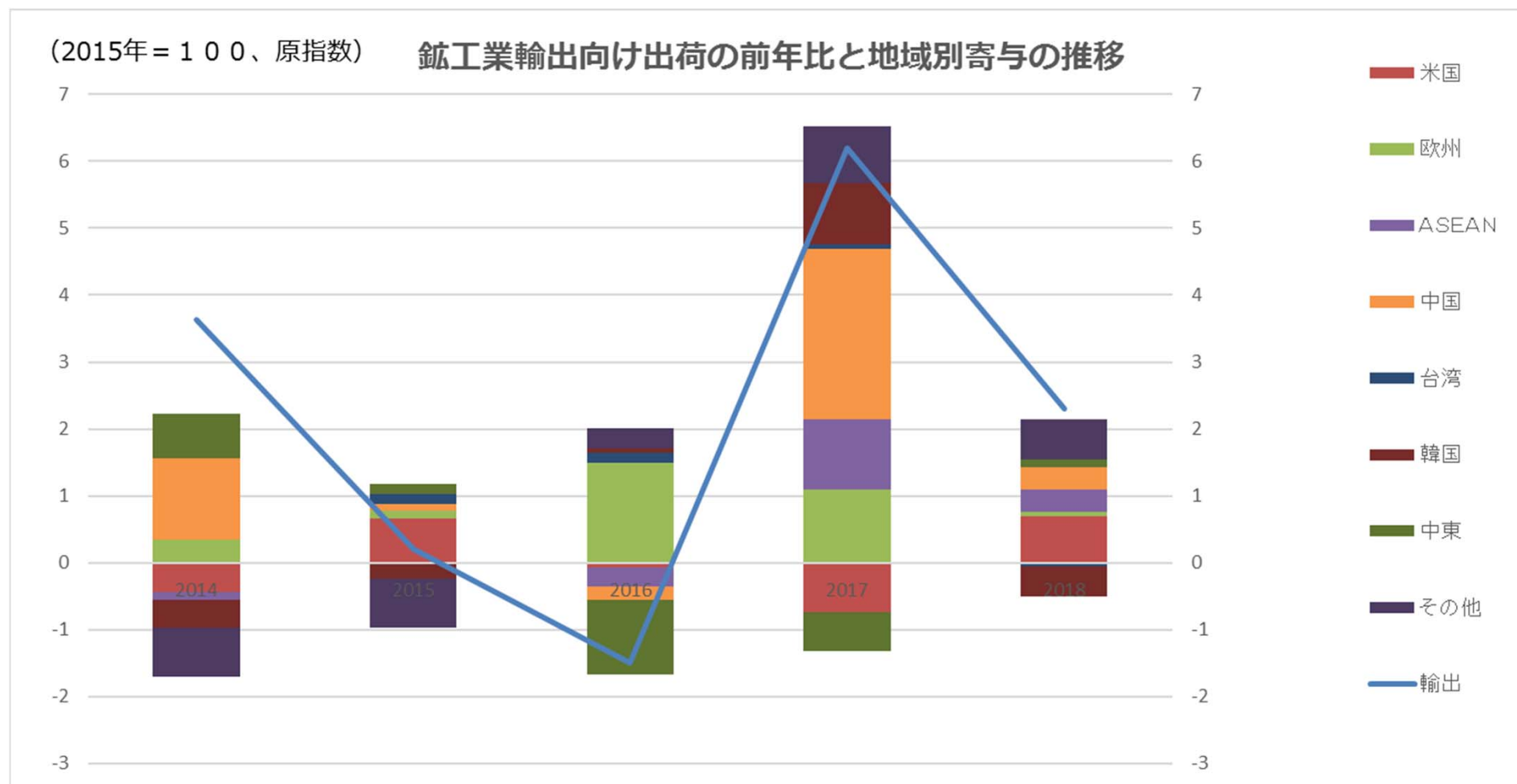
(季節調整済、前月比、%、%ポイント)



(注) 貿易統計に基づく試算値

輸出向け指数の前年比と仕向け先別寄与の推移

- 鋳工業の輸出向け指数（原指数）は2年連続の上昇となった。
- 2018年は、米国向け等が上昇に寄与。



(資料) 「鋳工業出荷指数」(経済産業省)、「貿易統計」(財務省)により作成(試算値)

主要業種、財の出荷前月比 米国／中国向け出荷の影響度合い

業種別分類	輸出向け出荷 前月比 (%)	米国向け 寄与度 (%ポイント)	中国向け 寄与度 (%ポイント)
鉄鋼・非鉄金属工業	7.7	-6.36	-11.31
生産用機械工業	8.3	13.17	0.89
汎用・業務用機械工業	-4.0	5.39	6.68
電気・情報通信機械工業	-8.5	-18.70	18.41
輸送機械工業	17.5	14.83	8.89
化学工業(除. 医薬品)	3.3	3.53	15.58

財別分類	輸出向け出荷 前月比 (%)	米国向け 寄与度 (%ポイント)	中国向け 寄与度 (%ポイント)
鉱工業用生産財	0.5	0.40	-1.33
資本財(除. 輸送機械)	4.4	8.93	7.87
建設財	0.1	5.76	-2.71
耐久消費財	2.7	28.16	5.92
非耐久消費財	5.7	-40.00	71.98

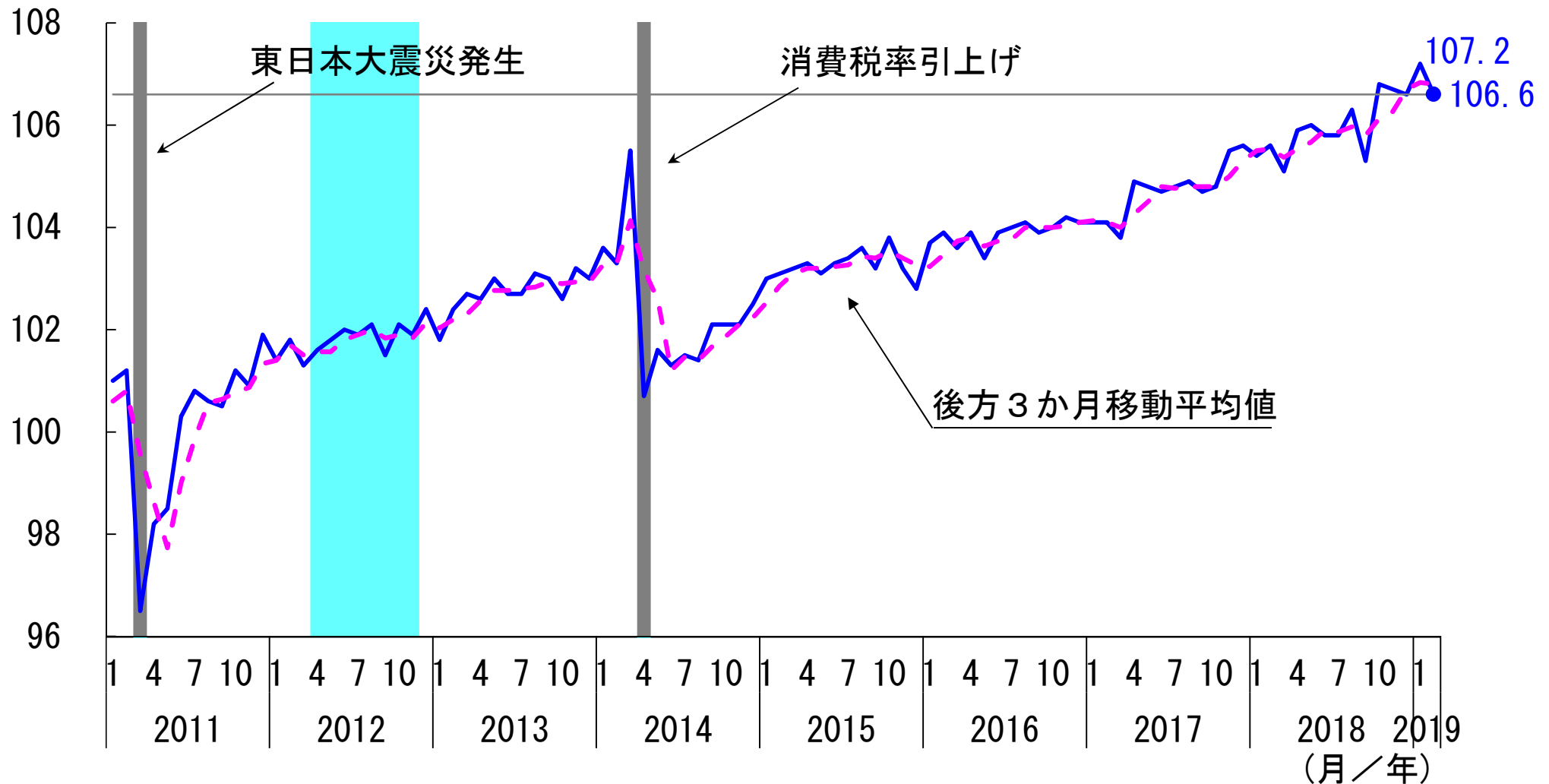
(注) 米国と中国以外の地域への輸出も相当量あることから、米国向け出荷と中国向け出荷の寄与度を合計しても輸出向け出荷の前月比になるわけではない。
それぞれの寄与度は、輸出向け出荷全体に対する米国向け出荷と中国向け出荷の影響度合いの目安として示している。

サービス産業活動の動向

第3次産業活動指数の動向

- ・ 2019年2月の第3次産業活動指数は、106.6（前月比－0.6％）と2か月ぶりの低下。
- ・ 2018年9月の105.3以来の指数水準。

（2010年＝100、季節調整済）



（注）水色のシャドー部分は景気後退局面。

2019年2月

「第3次産業活動は、持ち直しの動きがみられる」

基調判断の推移

- ・2015年1月～4月 「持ち直している」
- ・2015年5月～6月 「足踏みがみられる」
- ・2015年7月～9月 「横ばい傾向」
- ・2015年10月 「持ち直しの動きがみられる」
- ・2015年11月 「一進一退」
- ・2015年12月～2016年3月
「一進一退ながら一部に弱さがみられる」
- ・2016年4月～10月 「一進一退」
- ・2016年11月～2017年4月
「横ばい」
- ・2017年5月～7月 「持ち直しの動きがみられる」
- ・2017年8月～10月 「高い水準で横ばい」
- ・2017年11月～2018年2月
「持ち直しの動きがみられる」
- ・2018年3月 「一部に弱さがみられる」
- ・2018年4月～8月
「持ち直しの動きがみられる」
- ・2018年9月 「足踏みがみられる」
- ・2018年10月～
「持ち直しの動きがみられる」

(2015年1月より基調判断を実施)

		第3次産業 総合	
			前期比 (%)
2017年	I 期	104.0	-0.1
	II 期	104.8	0.8
	III 期	104.8	0.0
	IV 期	105.3	0.5
2018年	I 期	105.4	0.1
	II 期	105.9	0.5
	III 期	105.8	-0.1
	IV 期	106.7	0.9

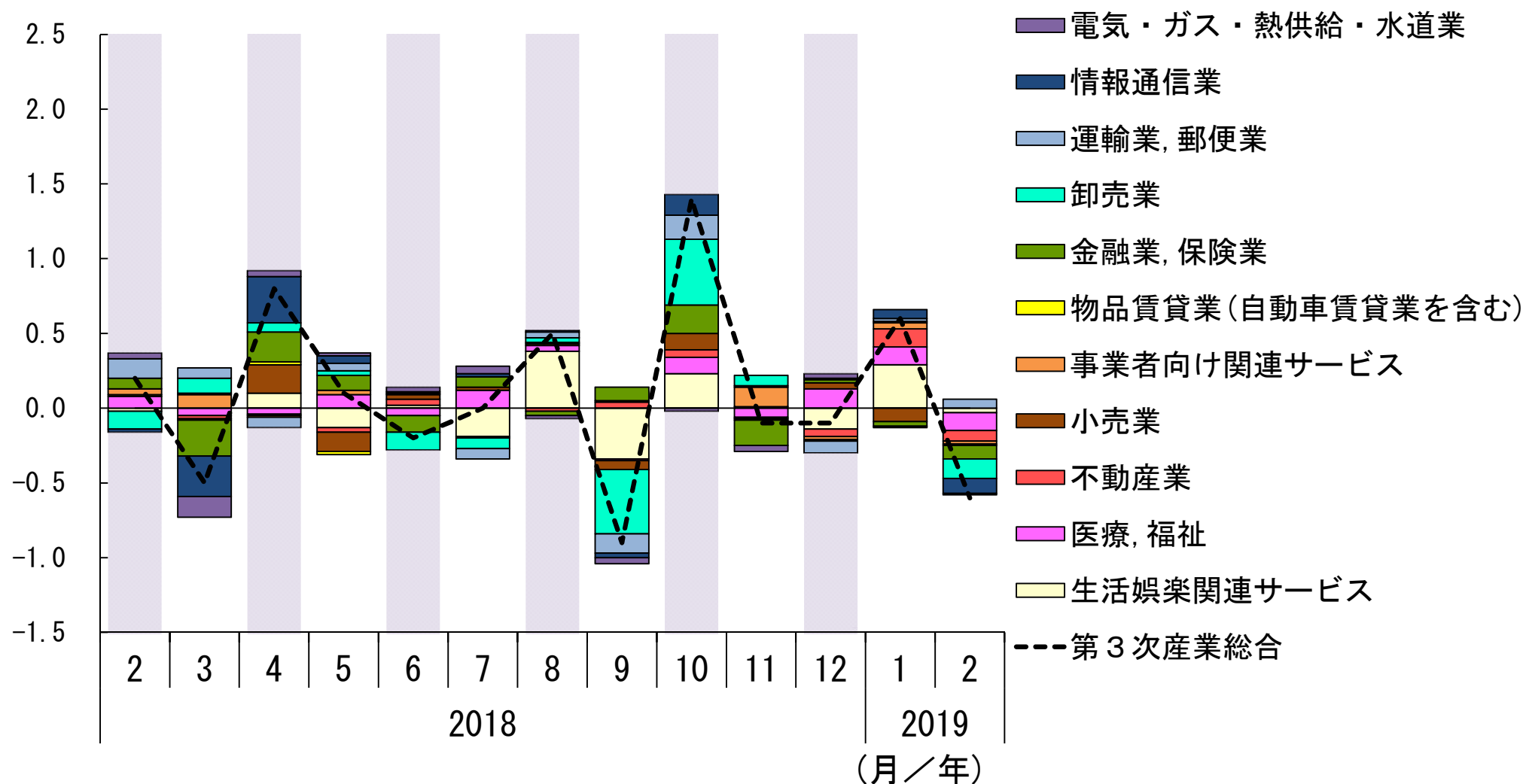
(2010年=100、季節調整済)

		第3次産業 総合		後方3か月 移動平均	
			前月比 (%)		前月比 (%)
2017年	1月	104.1	0.0	104.1	0.0
	2月	104.1	0.0	104.1	0.0
	3月	103.8	-0.3	104.0	-0.1
	4月	104.9	1.1	104.3	0.3
	5月	104.8	-0.1	104.5	0.2
	6月	104.7	-0.1	104.8	0.3
	7月	104.8	0.1	104.8	0.0
	8月	104.9	0.1	104.8	0.0
	9月	104.7	-0.2	104.8	0.0
	10月	104.8	0.1	104.8	0.0
	11月	105.5	0.7	105.0	0.2
	12月	105.6	0.1	105.3	0.3
2018年	1月	105.4	-0.2	105.5	0.2
	2月	105.6	0.2	105.5	0.0
	3月	105.1	-0.5	105.4	-0.1
	4月	105.9	0.8	105.5	0.1
	5月	106.0	0.1	105.7	0.2
	6月	105.8	-0.2	105.9	0.2
	7月	105.8	0.0	105.9	0.0
	8月	106.3	0.5	106.0	0.1
	9月	105.3	-0.9	105.8	-0.2
	10月	106.8	1.4	106.1	0.3
	11月	106.7	-0.1	106.3	0.2
	12月	106.6	-0.1	106.7	0.4
2019年	1月	107.2	0.6	106.8	0.1
	2月	106.6	-0.6	106.8	0.0

第3次産業活動指数前月比 業種別の影響度合い

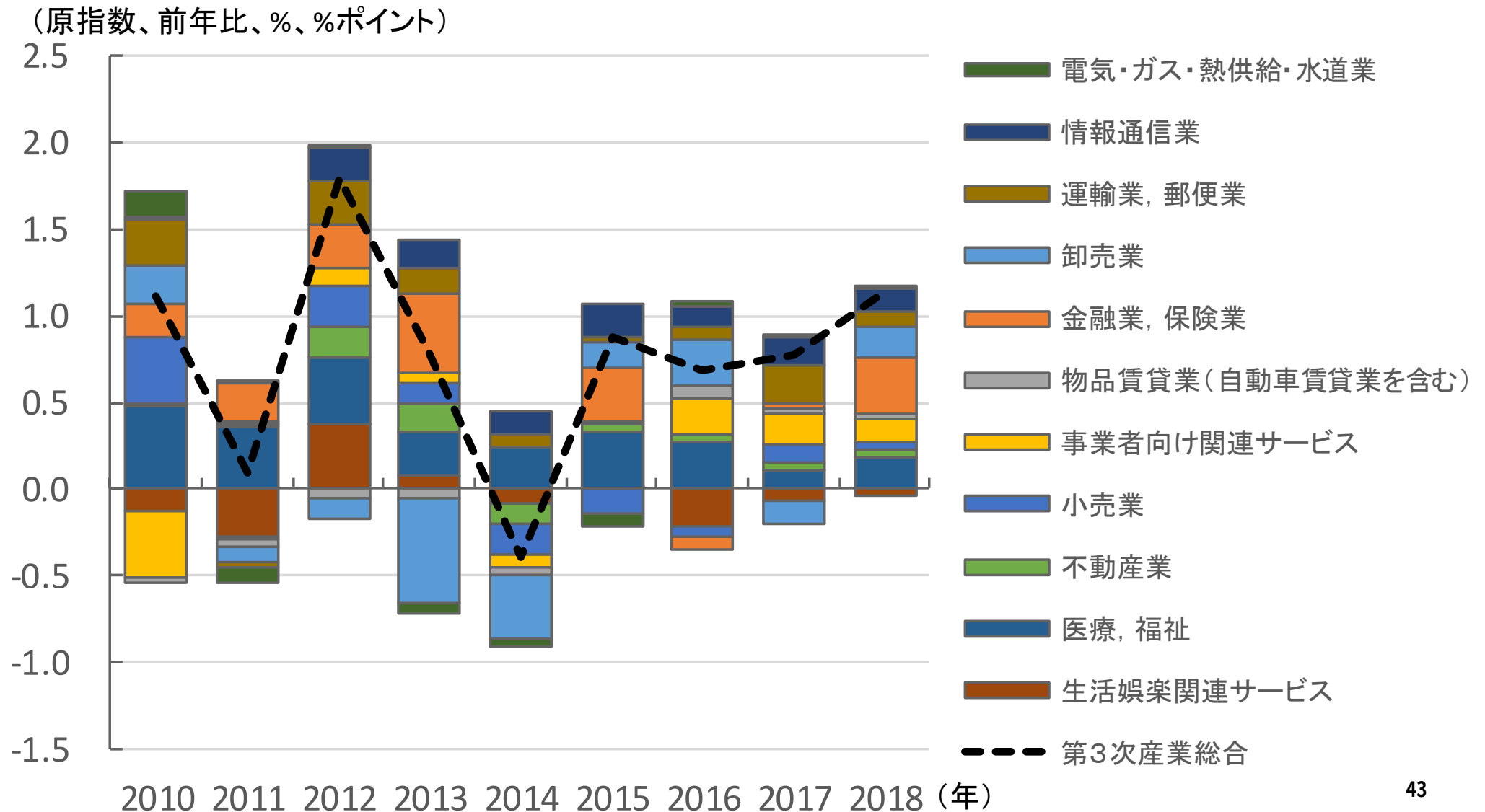
・2019年2月の第3次産業活動指数は、運輸業、郵便業が上昇したものの、卸売業などが低下したため、前月比-0.6%の低下。

(季節調整済、前月比、%、%ポイント)



第3次産業活動指数前年比 業種別の影響度合い

- 2018年の第3次産業活動指数は、金融業、保険業等が上昇したため、前年比1.1%の上昇。



第3次産業活動指数を大きく動かした個別系列

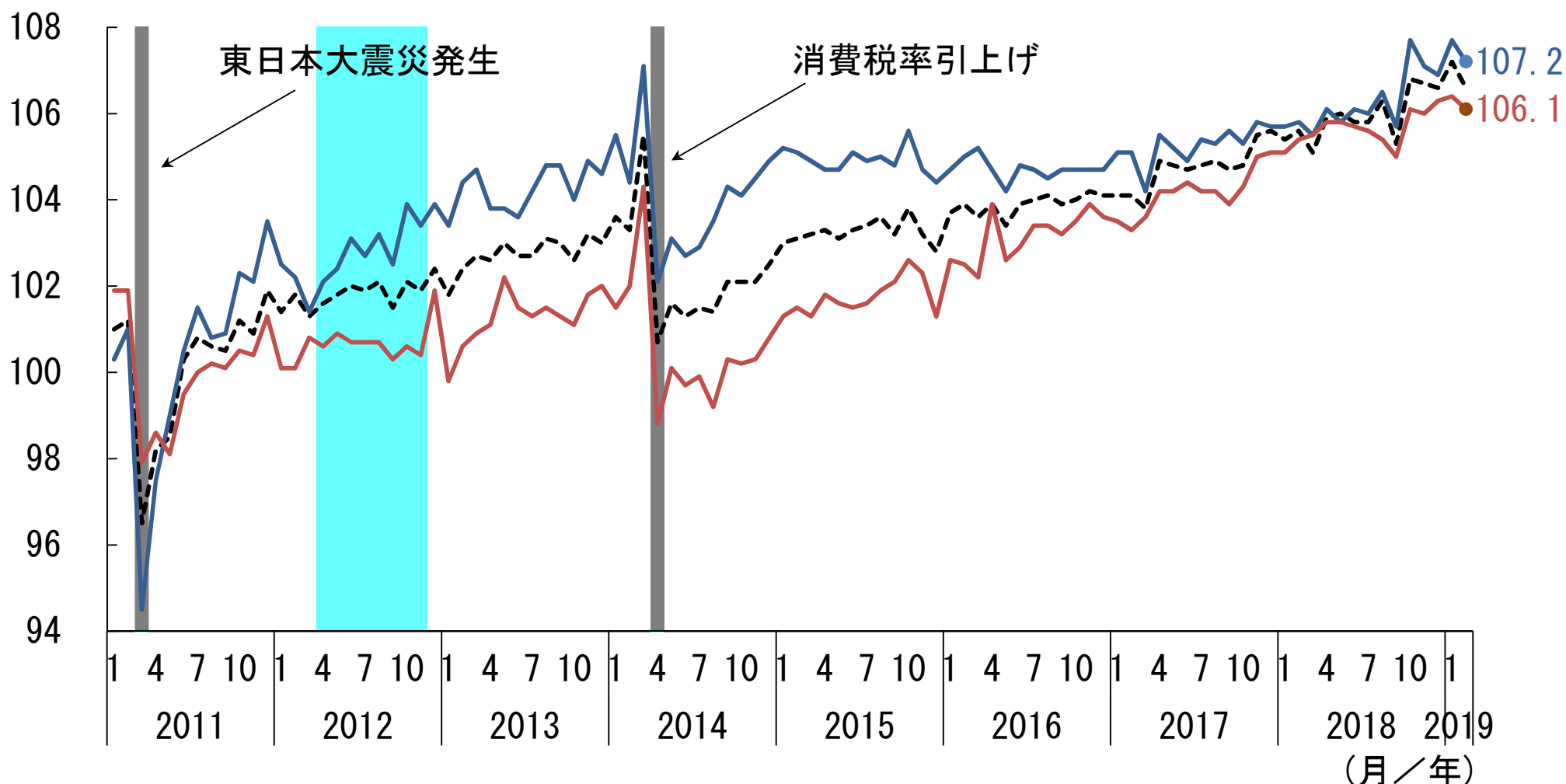
		業種名	前月比	寄与率
○ 第3次産業総合を 低下 方向へ 引っ張った3業種の中で 低下への影響度が大きい内訳業種	1位の業種	卸売業	- 0.9%	- 22.9%
	内訳業種	各種商品卸売業	- 8.6%	- 23.4%
		鉱物・金属材料卸売業	- 0.3%	- 1.2%
	2位の業種	医療、福祉	- 0.8%	- 20.6%
	内訳業種			
	3位の業種	情報通信業	- 0.9%	- 17.6%
	内訳業種	ソフトウェア業	- 2.7%	- 13.2%
○ 第3次産業総合を 上昇 方向へ 引っ張った3業種の中で 上昇への影響度が大きい内訳業種	1位の業種	運輸業、郵便業	0.6%	11.1%
	内訳業種	水運貨物運送業	2.1%	1.0%
		港湾運送業	2.0%	1.5%
	2位の業種			
	内訳業種			
	3位の業種			
	内訳業種			

寄与率：第3次産業全体の変動に対して影響を及ぼした、各業種の影響の度合い全業種の寄与率を足すと、当月が上昇なら100%、低下なら-100%になる。

広義対個人サービス／広義対事業所サービス活動指数の動向

- ・ 2019年2月の広義対個人サービス活動指数は、107.2（前月比－0.5%）と2か月ぶりの低下。
- ・ 広義対事業所サービス活動指数は、106.1（前月比－0.3%）と3か月ぶりの低下。

（2010年＝100、季節調整） --- 第3次産業総合 — 広義対個人サービス — 広義対事業所サービス



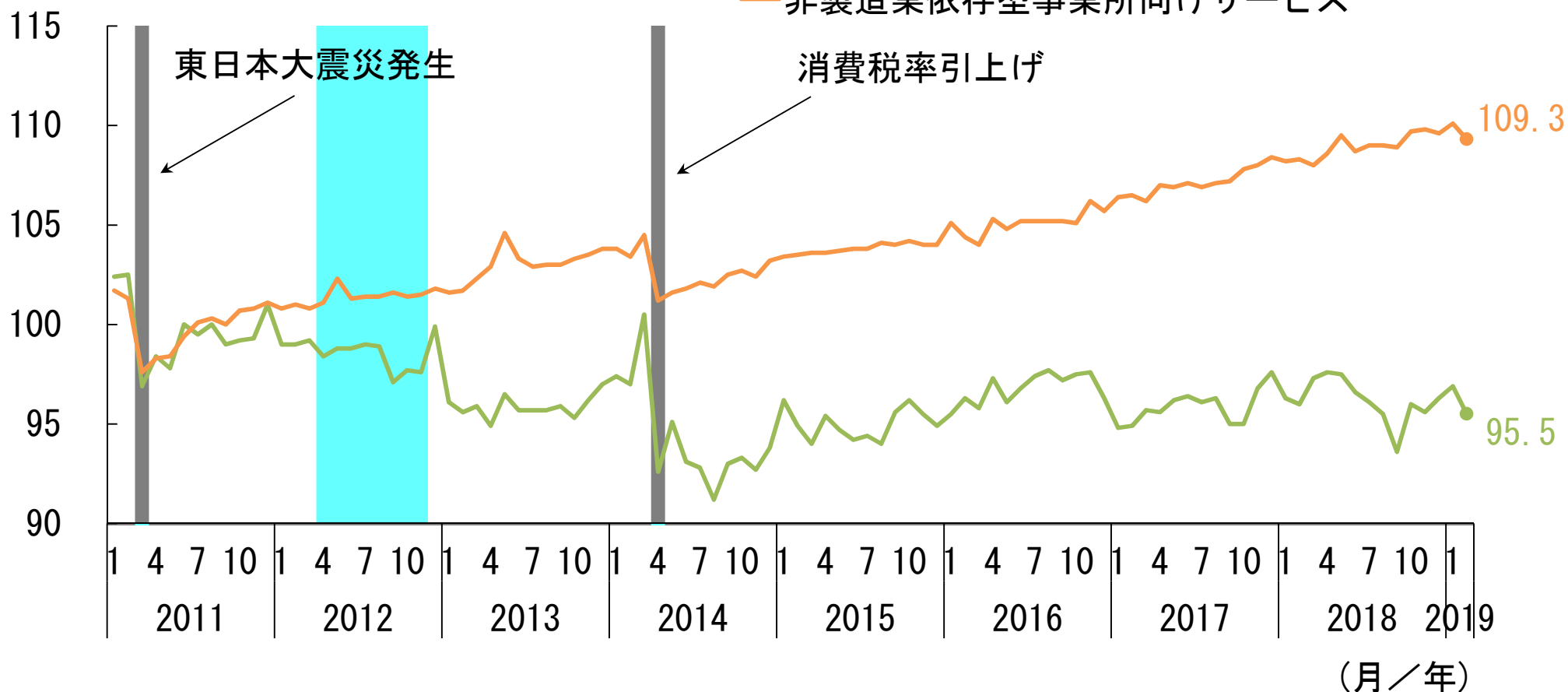
（注）水色のシャドー部分は景気後退局面。

製造業／非製造業依存型 事業所向けサービス活動指数の動向

- ・製造業依存型事業所向けサービス活動指数は、95.5(前月比－1.4%)と3か月ぶりの低下。
- ・非製造業依存型事業所向けサービス活動指数は、109.3(前月比－0.7%)と2か月ぶりの低下。

(2010年＝100、季節調整済)

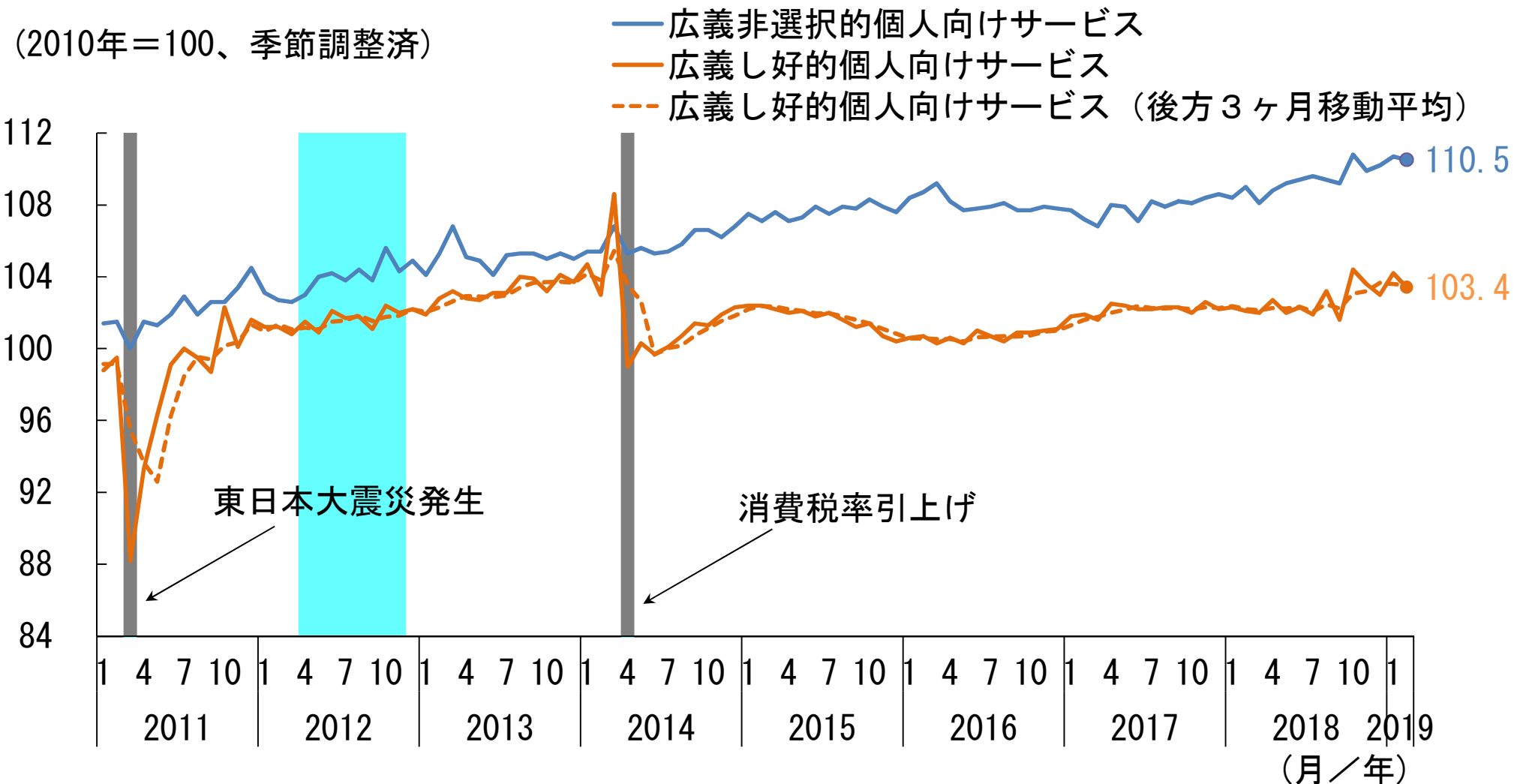
— 製造業依存型事業所向けサービス
— 非製造業依存型事業所向けサービス



(注) 1. 広義対事業所サービスの内訳系列を、産業連関表の製造業と非製造業の投入比率の大小により、「製造業依存型」と「非製造業依存型」の二つに分類している。
2. 水色のシャドー部分は景気後退局面。

非選択的／し好的 個人向けサービス活動指数の動向

- ・2019年2月の広義非選択的個人向けサービス活動指数は、110.5(前月比-0.2%)と3か月ぶりの低下。
- ・広義し好的個人向けサービス活動指数は、103.4(前月比-0.8%)と2か月ぶりの低下。



(注) 水色のシャドー部分は景気後退局面。

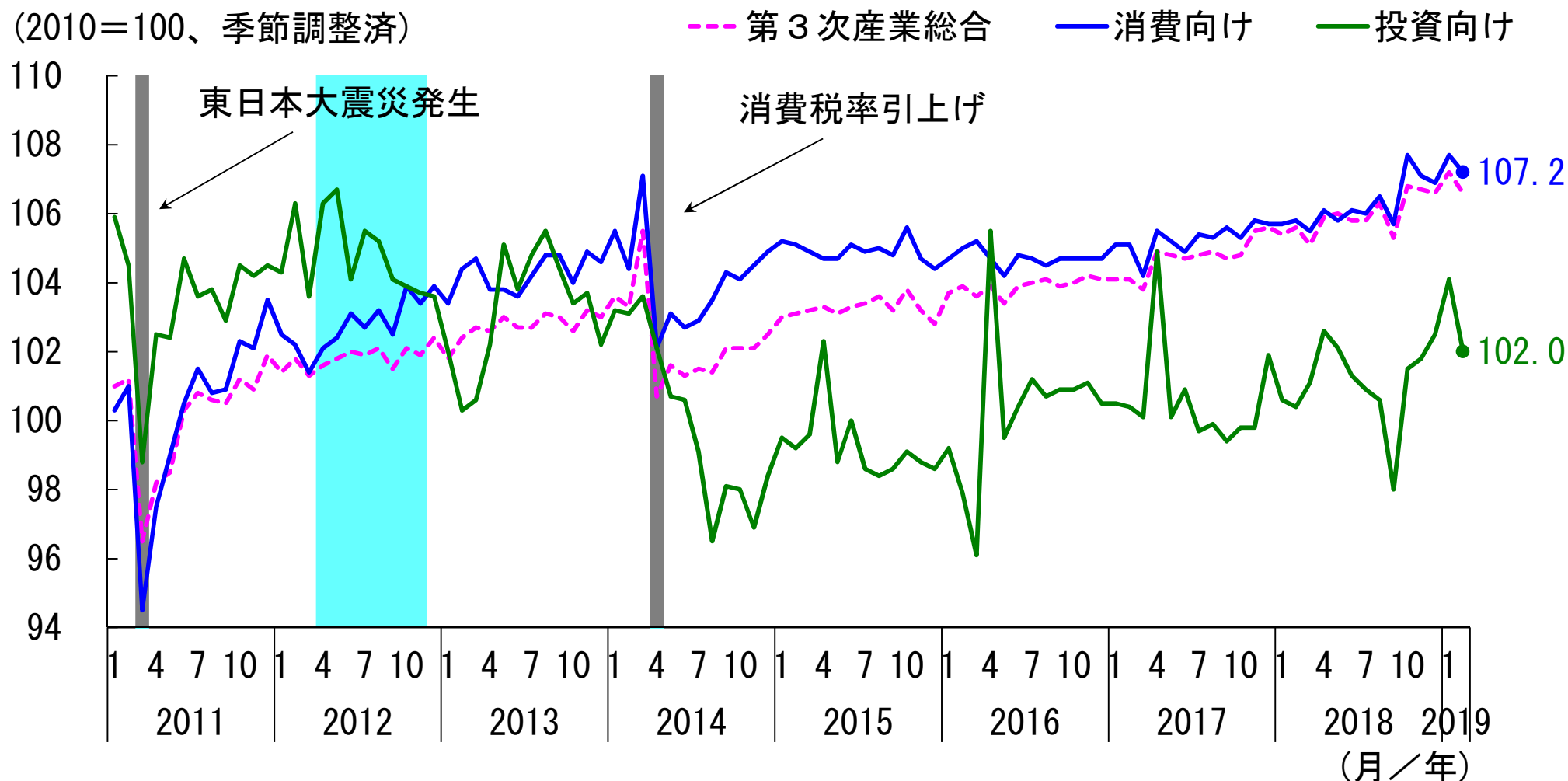
広義対事業所サービス、し好的個人向けサービスを大きく動かした個別系列

	業種名	前月比
○ 広義対事業所サービスを 低下 方向へ 引っ張った業種の中で 低下への影響度が大きい内訳業種	各種商品卸売業	- 8.6%
	建設コンサルタント	- 8.2%
	受注ソフトウェア	- 2.9%
	流通業務	- 4.7%
	電気機械器具卸売業	- 1.1%
○ 広義対事業所サービスを 上昇 方向へ 引っ張った業種の中で 上昇への影響度が大きい内訳業種	廃棄物処理業	3.2%
	機械設計業	5.1%
	産業機械器具卸売業	5.4%
	ソフトウェアプロダクト(除くゲームソフト)	8.2%
	建築材料卸売業	2.9%

	業種名	前月比
○ し好的個人向けサービスを 低下 方向へ 引っ張った業種の中で 低下への影響度が大きい内訳業種	マンション分譲(首都圏)	- 20.6%
	ゲームソフト	- 17.8%
	自動車整備業	- 8.5%
	その他の小売業	- 1.1%
	葬儀業	- 3.7%
○ し好的個人向けサービスを 上昇 方向へ 引っ張った業種の中で 上昇への影響度が大きい内訳業種	プロスポーツ(スポーツ系興行団)	333.2%
	理容業	7.8%
	織物・衣服・身の回り品小売業	1.6%
	各種商品小売業	1.5%
	販売信用業務	1.5%

消費向け／投資向けサービス活動指数の動向

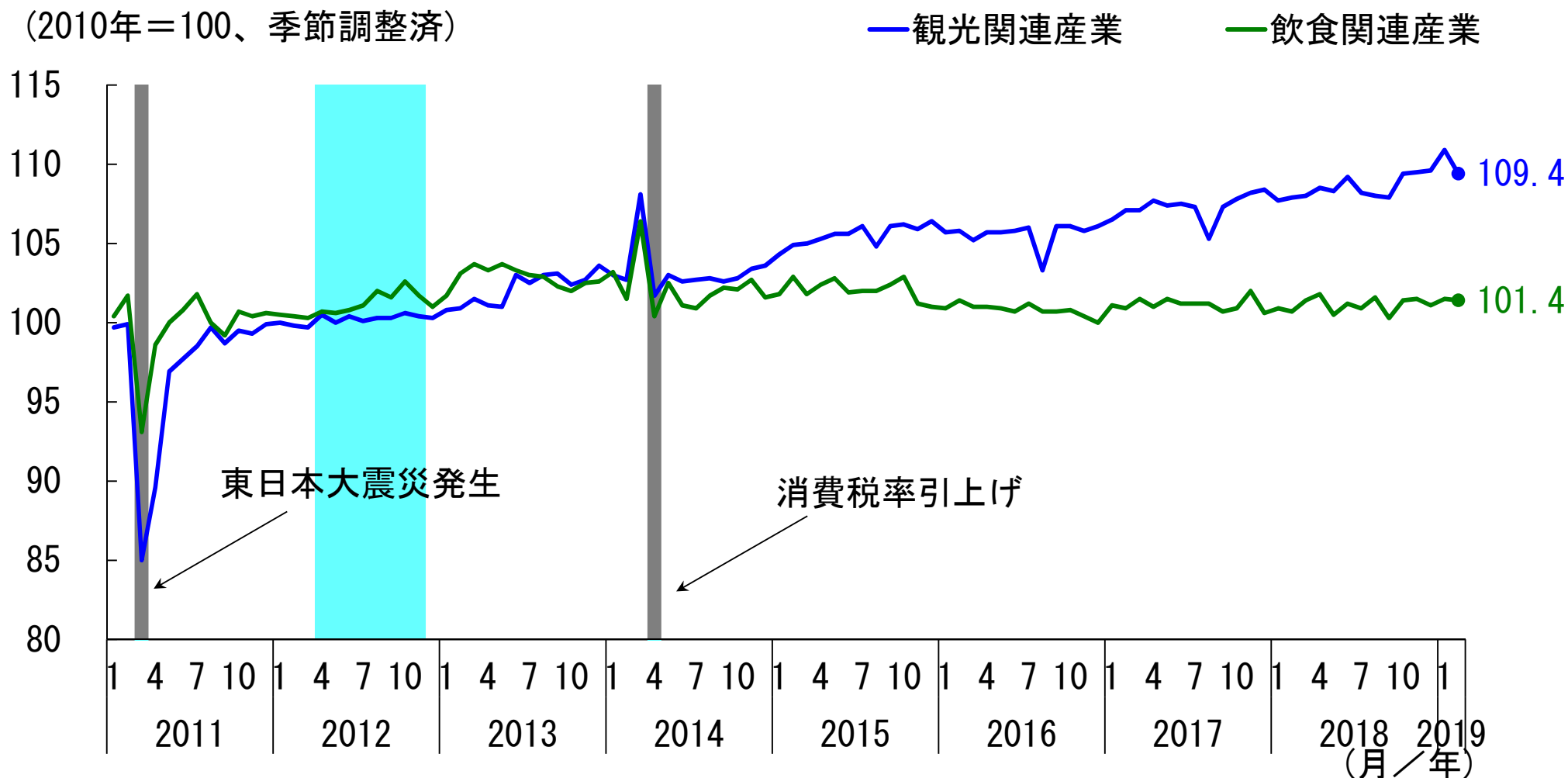
- ・ 2019年2月の消費向けサービス活動指数は、107.2(前月比－0.5%)と2か月ぶりの低下。
- ・ 投資向けサービス活動指数は、102.0(前月比－2.0%)と5か月ぶりの低下。



(注) 1. 消費向けサービス活動指数は、非製造業から供給される個人消費関連のサービス(小売業や娯楽業など)の動きを表す系列。
投資向けサービス活動指数は、非製造業から供給される民間企業設備関連のサービス(ソフトウェア開発、機械器具卸売業など)の動きを表す系列。
2. 水色のシャドー部分は景気後退局面。

観光関連産業活動指数、飲食関連産業活動指数の動向

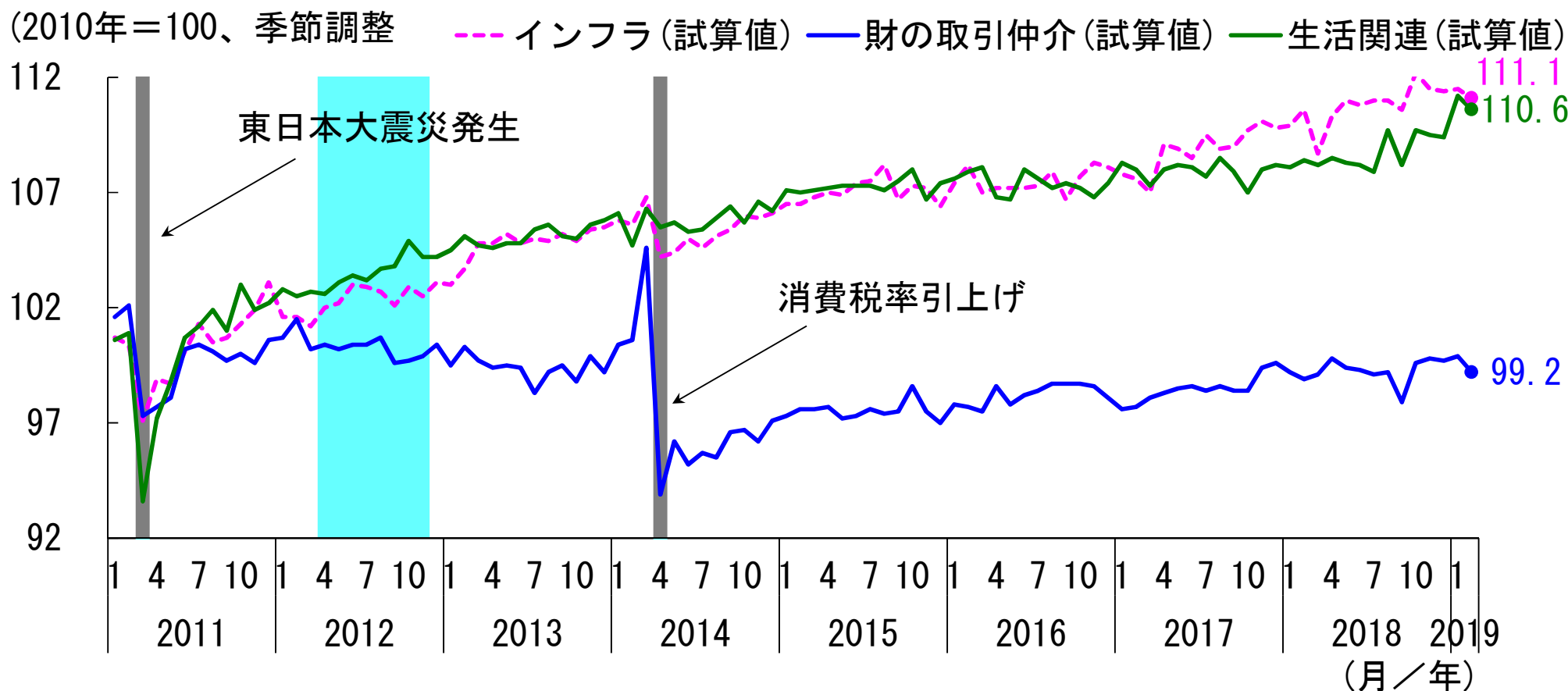
- ・ 2019年2月の観光関連産業活動指数は、109.4(前月比－1.4%)と5か月ぶりの低下。
- ・ 飲食関連産業活動指数は、101.4(前月比－0.1%)と2か月ぶりの低下。



(注) 1. 観光関連産業活動指数には、鉄道、バス、タクシー、飛行機、船舶等の旅客運送業、道路施設提供業(高速道路)、旅館、ホテル等の宿泊業、旅行業、遊園地・テーマパークが含まれる。
 飲食関連産業活動指数には、デパート等の各種商品小売業(飲食料品部門)、飲食料品小売業、食堂、レストランやファーストフード等の飲食店、飲食サービス業が含まれる。
 2. 水色のシャドー部分は景気後退局面。

形態別にみたサービス活動指数の動向

- ・ 2019年2月のインフラ型サービス活動指数(試算値)は、111.1(前月比-0.4%)と2か月ぶりの低下。
- ・ 財の取引仲介型サービス活動指数(試算値)は、99.2(前月比-0.7%)と2か月ぶりの低下。
- ・ 生活関連型サービス活動指数(試算値)は、110.6(前月比-0.5%)と2か月ぶりの低下。



(注)1. インフラ型サービス活動指数、財の取引仲介型サービス活動指数、生活関連型サービス活動指数は、それぞれ下記大分類業種の季節調整済指数を各ウェイトで加重平均して算出した試算値。なお、第3次産業活動指数の11ある大分類業種のうち「事業者向け関連サービス」は、この3つの試算値には含めていない。

・ インフラ型サービス活動指数：電気・ガス・熱供給・水道業、情報通信業、運輸業、郵便業、金融業、保険業

・ 財の取引仲介型サービス活動指数：卸売業、物品賃貸業(自転車賃貸業を含む)、小売業、不動産業

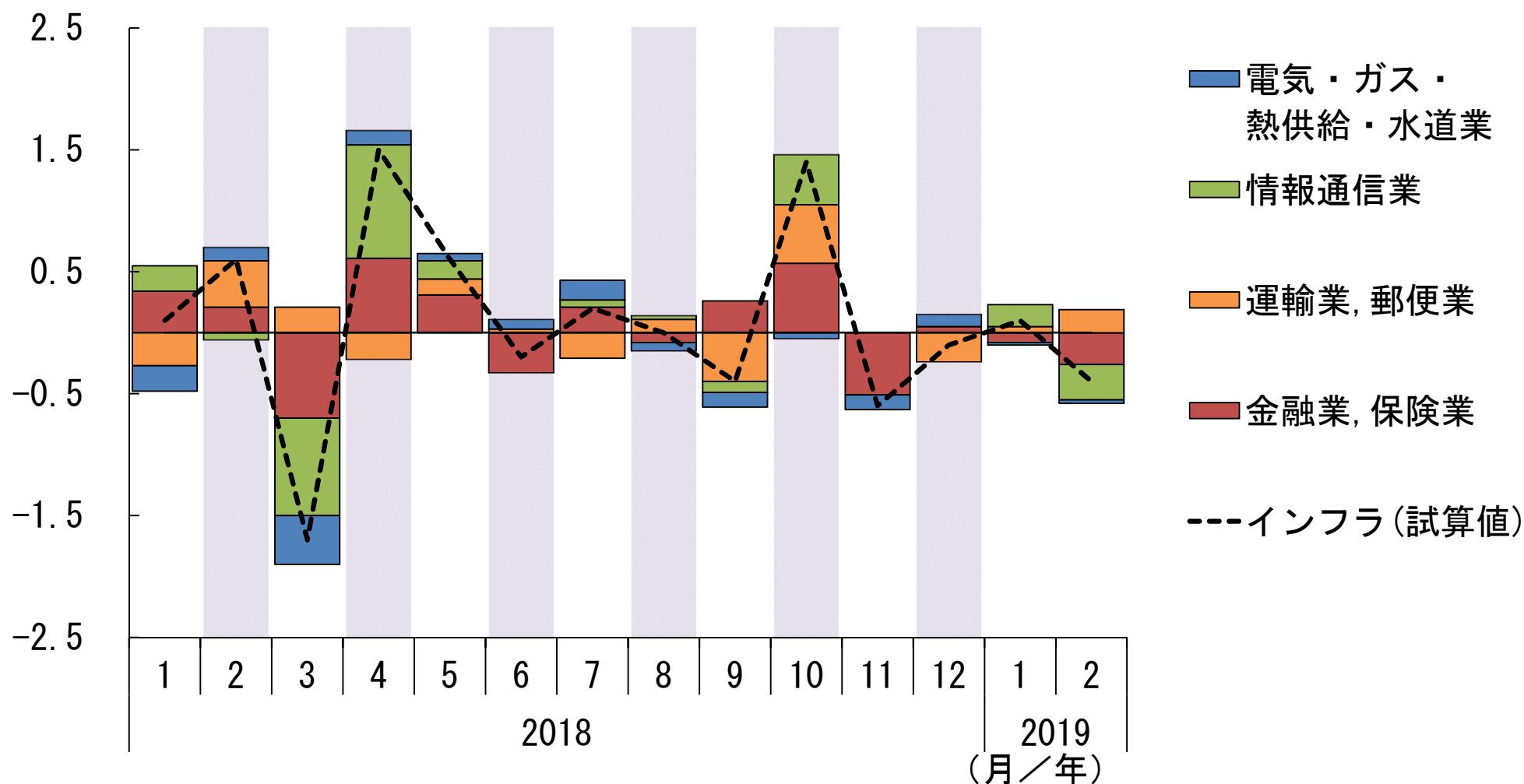
・ 生活関連型サービス活動指数：医療、福祉、生活娯楽関連サービス

2. 水色のシャドー部分は景気後退局面。

インフラ型サービス活動指数(試算値) 業種別の影響度合い

・2019年2月のインフラ型サービス活動指数(試算値)は、運輸業、郵便業が上昇したものの、情報通信業などが低下したため、前月比-0.4%の低下。

(季節調整済、前月比、%、%ポイント)



業種別にみたインフラ型サービス活動の動向

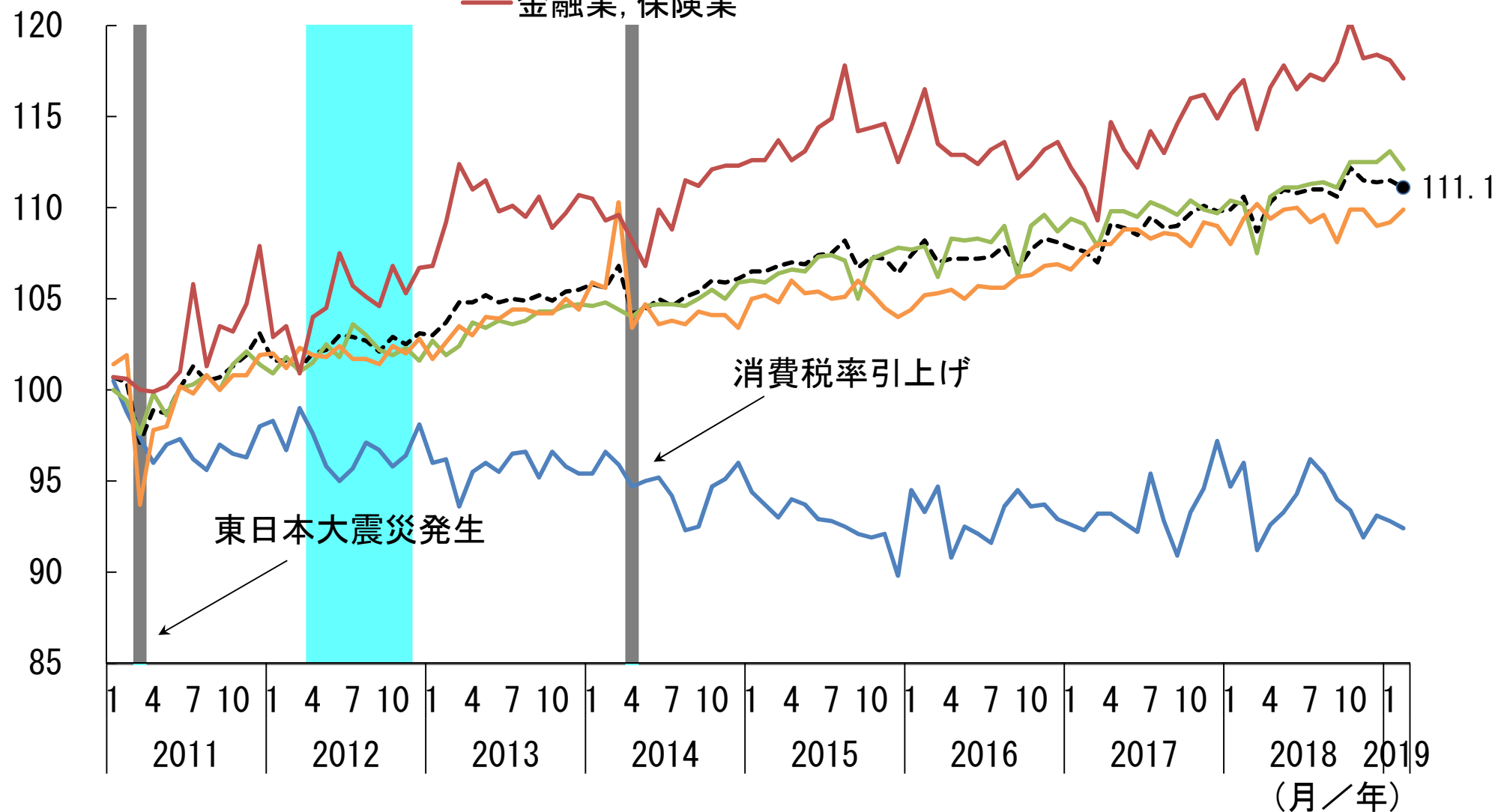
(2010年=100、季節調整済) --- インフラ(試算値)

—情報通信業

—金融業, 保險業

—電気・ガス・熱供給・水道業

一 運輸業、郵便業

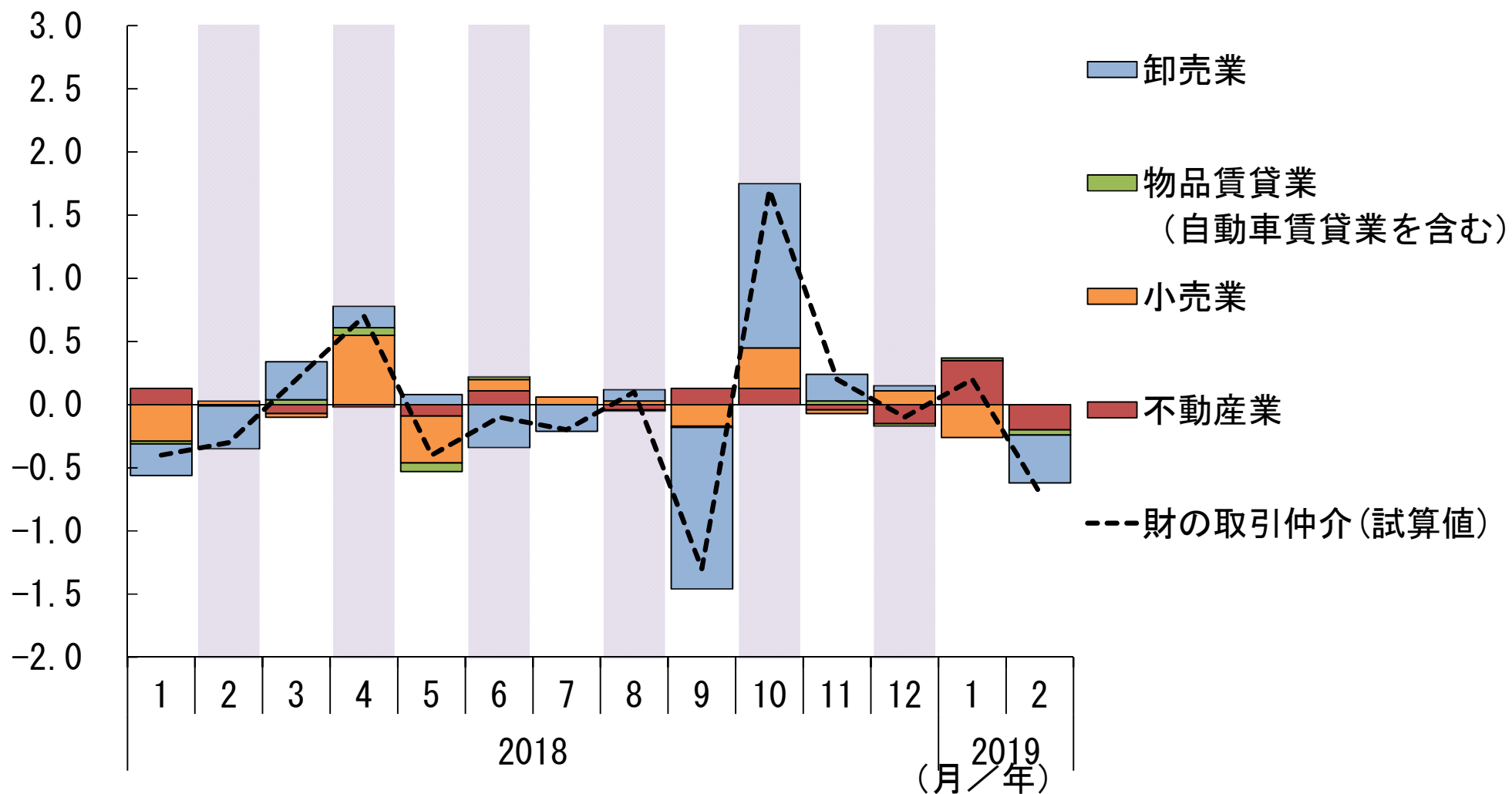


(注)水色のシャド一部分は景気後退局面。

財の取引仲介型サービス活動指数(試算値) 業種別の影響度合い

・2019年2月の財の取引仲介型サービス活動指数(試算値)は、卸売業などが低下したため、前月比－0.7%の低下。

(季節調整済、前月比、%、%ポイント)



業種別にみた財の取引仲介型サービス活動の動向

(2010年=100、季節調整)

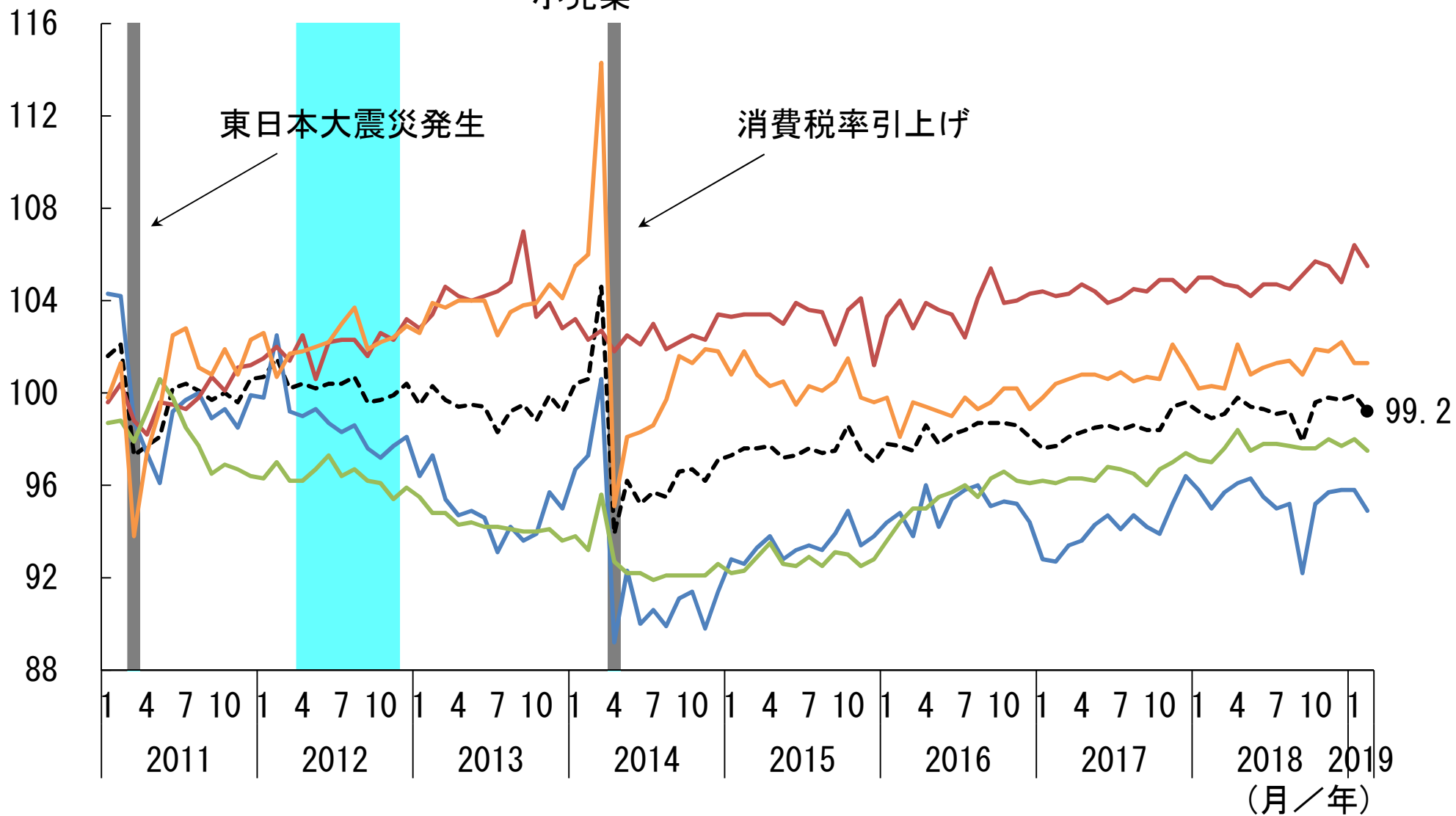
--- 財の取引仲介(試算値)

一、不動產業

一、小売業

一 卸売業

— 物品賃貸業

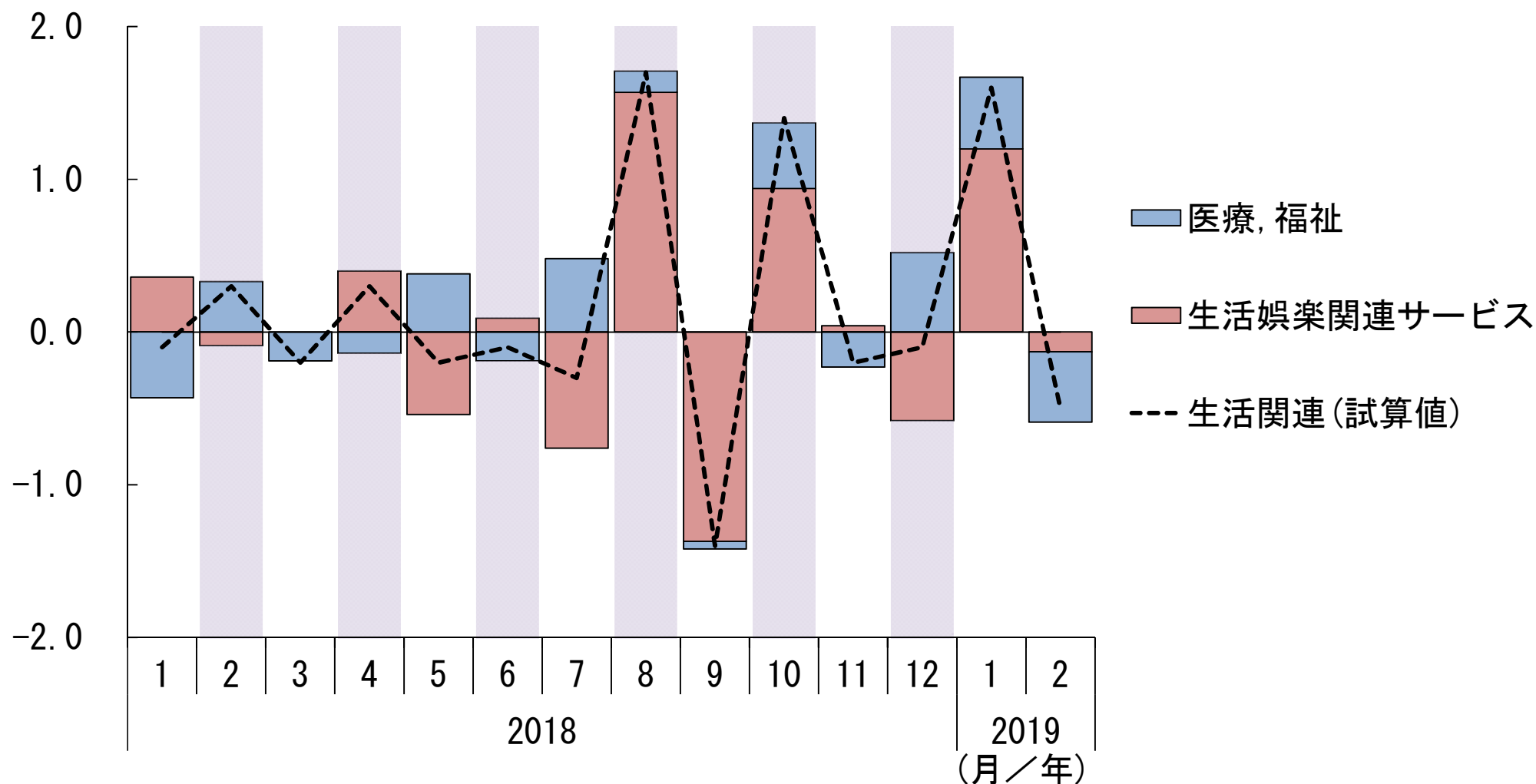


(注)水色のシャド一部分は景気後退局面。

生活関連型サービス活動指数(試算値) 業種別の影響度合い

・2019年2月の生活関連型サービス活動指数(試算値)は、医療、福祉などが低下したため、前月比－0.5%の低下。

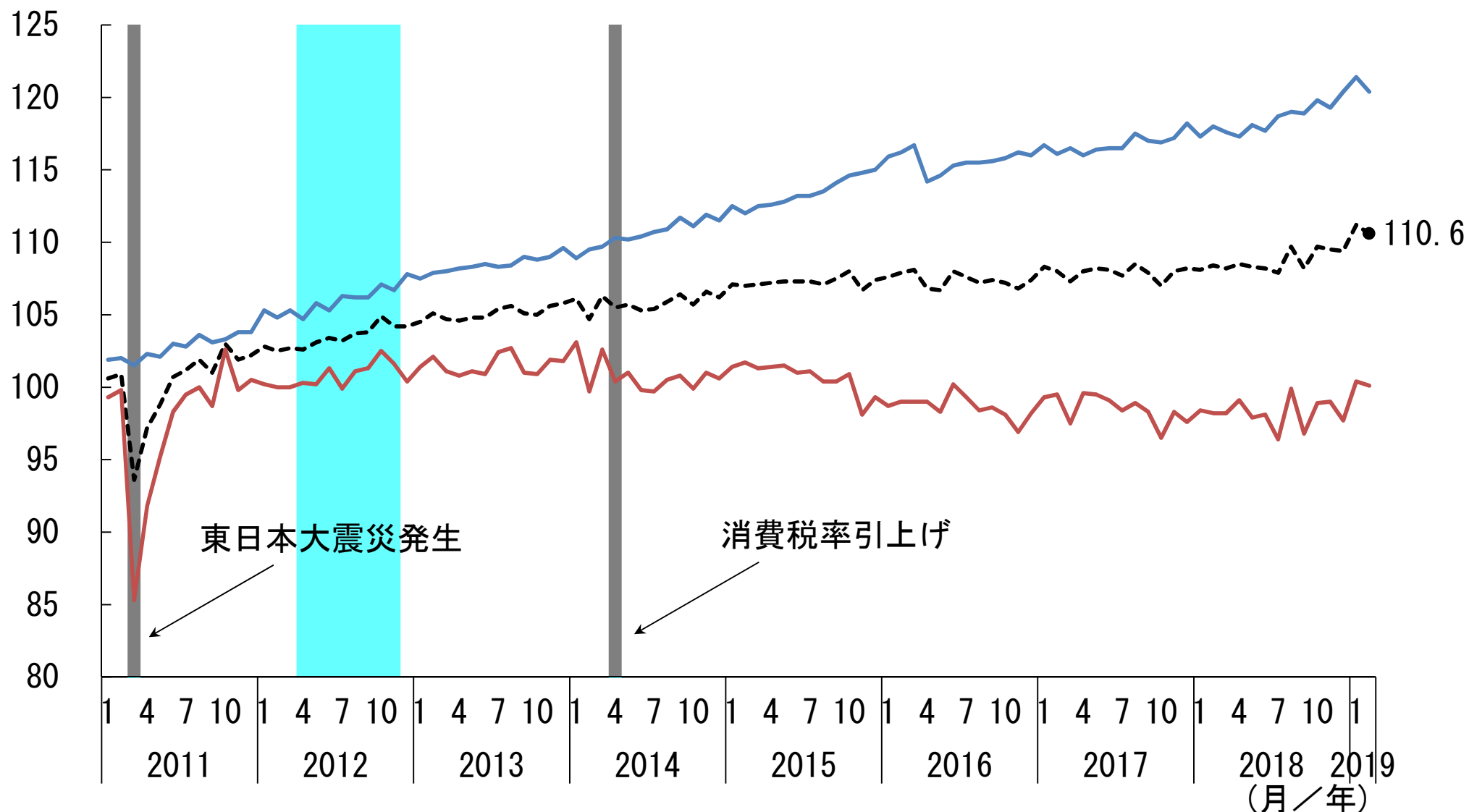
(季節調整済、前月比、%、%ポイント)



業種別にみた生活関連型サービス活動の動向

(2010年=100、季節調整済)

--- 生活関連(試算値) — 医療, 福祉 — 生活関連娯楽サービス



(注) 水色のシャドー部分は景気後退局面。